近現代語のコーパスを構築する際の「同字異訓」の問題に関する覚え書き

菅野　倫匡

キーワード：同字異訓、異音同表記語、同形語、同綴異義語、音訓読み分け

要　旨

読み方の定まらない語は近現代日本語のコーパスを構築するに当たって問題となるものである。これは電子化した本文を語に分割して品詞などの情報を与える際に同一の表記でありながら異なる読み方を持つ語が現れることから当該の表記について複数の読み方を想定し得るからである。このような問題が生じ得る語について本稿は今後の更なる検討の前段階として林立する用語と該当する語例との整理を試みるものである。

1. はじめに

近現代語のコーパスを構築するに当たって読み方の定まらない語が問題となることは既に知られるところである。これはコーパス構築のみならず、それ以前の語彙調査においても生じていた問題であり、山崎（2013）の挙げる「語彙調査に関する未解決の問題」の 1 つに数えられるものである。

この問題を解決する試みとして菅野（2021a）においては芥川龍之介賞受賞作品（以下、芥川賞作品）を対象に読み方の定まらない語に対して客観的で再現可能な手順によって暫定的な読み方を認定する方法を考案した。また、この方法については菅野（2021b）において芥川賞作品のコーパスを構築するに当たって生じ得る問題を検討する一環として改めて手順を整理した。ただし、これは依然として芥川賞作品を念頭に置いた方法であることから近現代語のコーパス構築に適用するには修正を要する点がある。

これを踏まえ、この方法について広く近現代語の資料を対象としてコーパスを構築するに当たって適用可能なものとして整備するために以下では修正や補足を試みつつ改めて手順を提示する。その手順は(1)と(2)とに示す通りである[1]。

(1) a. 本文の該当する箇所あるいは初出となる箇所にルビのある場合にはルビに従って読み方を認定する。ただし、洋語のルビ（「恋愛（ラブ）」など）や仮名以外を含むルビ（「ラバイ（坊さん）」や「ｄｏｐｅ（麻薬的）」）は除く。

（菅野 2021a:485,（1a），一部改変）

b. 読み方に迷うものについて一般に同一のものと看做し得る資料の本文の該当する箇所あるいは初出となる箇所にルビのある場合にはそのルビに従って読み方を認定する[2]。ただし、洋語のルビや仮名以外を含むルビは除く。

（菅野 2021a:485,（1b），一部改変）

c. 人名は(2)によって読み方を認定し、それ以外のものは内省によって読み方を認定する。ただし、実在する地名などの固有名詞は調べた上で認定する[3]。（菅野 2021a:485,（1c），一部改変）

---

[1] 菅野（2021a）に示した手順を概ね再掲したが、菅野（2021b）に引く際に改変を施したところを中心に一部を改めた。また、広く近現代語の資料を扱うために必要に応じて脚注に補足した。

[2] 菅野（2021a）では芥川賞作品を念頭に置いて「『芥川賞全集』や各作品の単行本・文庫本」と記したが、本稿では「一般に同一のものと看做し得る資料」に読み替えた。なお、本文の異同は水谷（1983）の指摘しているように語彙調査――延いてはコーパス構築――に当たって現代語の資料においても問題となる点であるが、菅野（2021b）に具体例を示したように読み方の認定に資する場合が（稀ながら）ある点も特筆に値する。また、このような異同については小説（田原 1975; 岩淵 1989）や新聞（横山・笹原・野崎・ロング 1998）における具体例も参考になる。

[3] 当然ながら人名であっても実在する固有名詞は調べた上で認定することになる。例えば、小説に現れる人物は(2)に従って「美月」を「ミずき」、「楓」を「かえで」とするが、新聞に現れる(i)の下線部は「ミづき」とするのに対して(ii)の下線部は「ミつき」とし、(iii)の下線部は「かえで」とするのに対して(iv)の下線部は「フウ」とする必要がある（下線は引用者による）。

(i) 岩倉家の隣にあるお好み焼き屋の息子・梅津貴司は赤楚衛二、親友の望月久留美は乃木坂46の山下美月が演じる。（朝日新聞・2022年9月29日夕刊3面）

(ii) 若者へのアピールを意識して、家族役の一人にアイドルグループ「STU48」の今村美月さん（19）を起用した。（朝日新聞広島版・2019年4月5日朝刊21面）

(iii) そこで、アイドルグループ「乃木坂46」のメンバーで、昨年の全日本大学駅伝の事前番組に出演するなど“駅伝通”の佐藤楓（かえで）さん（22）に、箱根の注目ポイントや駅伝が好きになったきっかけ、グループと駅伝チームに通じるものなどを語ってもらった。（朝日新聞デジタル・2021年1月1日9時00分）

(iv) 沖侑果（ゆうか）さん（20）と薮下楓（ふう）さん（19）は、かつて「木蝋（もくろう）」生産で栄えた愛媛県内子町で、歴史ある町並みを歩き、木蝋で作る和ろうそくの柔らかな炎に見入った。（朝日新聞広島版・2020年2月22日朝刊24面）

（2）a.　本文に姓ないしは名の読み方を示す箇所が別にあれば、それに従って読み方を認定する（「タカコ」と呼ばれる「貴子」など）。

（菅野 2021a:485,（2a），一部改変）

b.　本文に姓ないしは名の一部分を含む呼び名が別にあれば、そこから推し量って読み方を認定する（「シュンちゃん」と呼ばれる「俊治」など）。

（菅野 2021a:485,（2b），一部改変）

c.　姓は『苗字 8 万よみかた辞典』（以下、『苗字 8 万』）を引き、名は『名前 10 万よみかた辞典』（以下、『名前 10 万』）を引き、載せられている読み方が 1 通りしかなければ、それに従って読み方を認定する。また、読み方が複数通りあれば、改めて姓は『人名よみかた辞典―姓の部―』新訂第 3 版（以下、『姓の部』）を引き、名は『人名よみかた辞典―名の部―』新訂第 3 版（以下、『名の部』）を引き、挙げられている実例が最多の読み方に従って読み方を認定する。なお、同数ならば、そのうちのいずれかを内省によって選び、読み方を認定する。　（菅野 2021a:485,（2c），一部改変）

この手順によって暫定的な読み方を認定することにより、読み方の定まらない語の問題は一定の解決を見たものと考えられる。特に固有名詞については少なからぬ語に読み方を認定することが可能となり、この手順の有効性（の一端）が示されるところである[4]。しかし、菅野（2021b）にも述べたように内省によって認定せざるを得ないものについては検討を加える余地がある[5]。

なお、菅野（2021a, b）においては認定した読み方に基づいて固有名詞を含めた各語に語種を認定する手順も示してあるが、「仮名書き語としてのみ現れる人名の仮名の部分」（菅野 2021a: 486, 2021b: 82）についても実在する固有名詞ならば、調べた上で認定することになる。例えば、小説に現れる「たか子」は後掲の『名前 10 万』や『名の部』を引き、実例が最も多い「高子」（7 例）に従って語種を認定するが、新聞に現れる(v)の下線部は「多賀子」（『新訂現代政治家人名事典―中央・地方の政治家 4000 人―』）に従って語種を認定する必要がある（下線は引用者による）。

（v）　社民党の土井たか子党首は、党首討論での少数会派の発言機会を確保し、本会議や予算委員会への首相の出席を減らさないように求めた。（朝日新聞・1999 年 11 月 11 日朝刊 1 面）

[4] 地名については菅野（2021a）において『角川日本地名大辞典』、『日本歴史地名大系』、『大日本地名辭書』増補版を補助的に参照する旨を述べたに留まるが、個々の地名に固有の事情が大きいこともあり、それ以上の具体的な手順を定めることは困難であるとの結論に至った。

[5] 既に菅野（2021b）にも関連することは述べたが、コーパス構築に当たって複数の読み方を想定し得る語について内省や「どちらかに倒すという便宜的な解決方法」（山崎 2013: 155）によって読み方を認定した場合にはそのことを明示することが少なくとも再現性を担保するために重要であると考える。

そのような検討の前段階として本稿では既に菅野（2021a, b）において提示した方法を踏まえながら現状の整理を試みる[6]。具体的には読み方の定まらない語のうち菅野（2021a, b）の方法を用いても内省によって読み方を認定せざるを得ない語に着目して読み方の定まらない語を指す用語とそれに該当する語例とを以下に順に整理することとする[7]。

2. 読み方の定まらない語を指す用語

先行研究においては読み方の定まらない語を指す用語が林立しており、その定義も（語例の提示に留まって）曖昧なものであったり研究によって異なるものであったりして統一を欠く状況にある。当然、用語やその定義は研究の目的に応じて変わるものであり、それ自体を否定する意図はないが、その概要について示すことは更なる検討に資するものであると考える。ここでは各研究における用語を概観した上で読み方の定まらない語を指す用語について整理を試みる。

まず、「同字異訓」という用語について取り上げる。この用語を採るものとしては水谷・松原・坪井（1971）とその修正を試みる水谷（1972）とそれらを増補する佐竹（1987）との一連の研究と玉村（2013）の研究とがある。前者は「同字異訓の組」を持つ「同字異訓熟語」――佐竹（1987: 198）の約言するところによると「同一の漢字表記に対して，二通り以上の異なる意味の語として読みうる熟語」を指す――を定義し、それに該当する語例を挙げるものである[8]。また、後者は「1 つの漢字の異なる訓」（玉村 2013: 65）を指す「同字異訓」の関係について文字列が一致するか否かという点と仮名を含むか否かという点との 2 点から 4 つに分類し、それぞれに該当する語例を挙げるものである。なお、前者の「訓」は「読みの意味であって，音・訓と言う時の

[6] 本稿では菅野（2021a, b）において提示した方法のうち「読み方が定まらない語の問題」（菅野 2021b）に関係するところを取り上げたが、それ以外のところに関して補足すると「対象とする本文についての問題」（菅野 2021b）に関連して述べた「位取りを示す語のない 2 桁以上の数字に位取りを示す語を補う「NumTrans」と呼ばれる変換処理」（菅野 2021a: 485, 2021b: 78）を施さない場合の処理について既に田中（1971b）が類似した処理を提案していたことが判明したことから参考として示すべきであったことを申し添える。

[7] 余談ながら芥川賞作品では読み方の定まらない語について内省に代えて点訳資料などによって認定することも検討したが、入手困難な場合があることなどから採用を見送った経緯がある。

[8] なお、後述する「同表記語」という用語との関連について言えば、佐竹（1987）の挙げる語例について同書の水谷（1987: 12）は「綴りは同じでも発音の異なる同表記語［homograph］」の例であるとも述べている。

それではない」（水谷 1987: 12）のに対し、これに即して言うと後者の「訓」は「音・訓と言う時のそれ」であるが、後者は「音」を含めた分類や語例をも示していることに留意する必要がある[9]。これに関連するものとして武部（1988）の研究は音読み・訓読みの双方の読み方を持つ「音訓読み分け」について該当する語例を挙げるものである。

次に「同表記語」という用語について取り上げる。この用語やそれに類する用語を採るものとしては大島（1992）の研究がある。この研究は「漢字による表記形が同一であってもその語形において相違点が認められるもの」（大島 1992: 4）を指す「異音同表記語」について「異音同義同表記異語」――武部（1988）の「説明読み」に相当する語――と「異音類義同表記異語」と「異音異義同表記異語」と「類音同義同表記同語」――多くは「語形のゆれ」として扱われる語――との 4 つに分類し、それぞれに該当する語例を挙げるものである。なお、前三者は「従来，同表記語とか，同表記異語とかよばれてきたもの」（大島 1992: 4）とのことである[10]。これに関連するものとして伝・中村・小木曽・小椋（2008）の研究は「同表記異語」について「同表記同音異語」と「同表記異音異語」との 2 つに分類し、後者を「同表記異音語」とした上で語種や品詞の連接情報を用いて「同表記異音語」の曖昧性解消の可否を検討したものである。また、コーパス構築に当たって語に与える品詞などの情報について詳述した小椋・小磯・冨士池・宮内・小西・原（2011: 136）は「同じ書字形（表記）かつ同じ品詞でありながら，異なる語彙素（見出し）となるような語」を指す「同表記異語」が少なくなるような見出し語（「語彙素」）の認定についても述べたものである[11]。更にコーパス構築に先立つ語彙調査に関連するものとして田中・堀江（1969: 43）は「同文字列別ヨミガナ」を指す「同表記別語」について語彙調査の結果から語彙表を作成する手順を示したものである[12]。

---

[9] 例えば、「「異字同訓」の漢字の使い分け例」（平成 26 年 2 月 21 日文化審議会国語分科会報告）における「異字同訓」の「訓」も水谷（1987: 12）に即して言うならば、「音・訓と言う時のそれ」である。仮に「同字異訓」の「訓」を「音・訓と言う時のそれ」とするならば、両者は並行的に捉えられるが、後述するように本稿では「「異訓」は仮に「異なる読み」をさすもの」とする水谷・松原・坪井（1971: 22）の研究に倣って「訓」を「読みの意味」（水谷 1987: 12 ）とする。

[10] ただし、大島（1992）には「同表記異語」について前三者に後一者を含めるようにも後一者に代えて「同音異義同表記」の「異語」を含めるようにも解し得る箇所がある。

[11]「同表記異語」を少なくすることは（自動）形態素解析の解析精度の向上に資するものである。また、前述した伝・中村・小木曽・小椋（2008）は「同表記異音語」の曖昧性解消によって解析精度の向上を図るものである。なお、見出し語の認定については水谷（1983）も参考になる。

[12] ただし、「同表記別語」とするのは田中・堀江（1969）に留まり、これに続く田中・堀江（1970）や田中（1971a, b）は「同表記別語」に代えて「同形短単位」または「同形語」（田中 1971b）とする。

これを踏まえ、本稿において読み方の定まらない語を指す用語について改めて整理を試みる。まず、同一の表記の語を指す「同表記語」については伝・中村・小木曽・小椋（2008）の「同表記同音異語」――例えば、「欠ける」や「掛ける」を仮名表記にした「かける」――も含むことになるが、「同表記同音異語」は読み方の定まる語であることから読み方の定まらない語を指す用語として採用することには問題があると言える[13]。次に「同表記異語」については大島（1992）の「類音同義同表記同語」――例えば、「アイソウ」とも「アイソ」とも読める「愛想」――を含まず、読み方の定まらない語の一部を除外することになることから読み方の定まらない語を過不足なく指す用語とは言い難いものである[14]。更に「異音同表記語」については読み方の定まらない語を指すものではあるが、音韻論において「allophone」を指す「異音」という用語との競合を招く懸念があることに加え、用語として「異音同表記語」（大島 1992）を採用するか「同表記異音語」（伝・中村・小木曽・小椋 2008）を採用するかという点を決し難いことから採用を見送ることとした[15]。

一方、「同字異訓」については水谷・松原・坪井（1971: 22）に倣って「「異訓」は仮に「異なる読み」をさすもの」と断る必要はあるが、同一の表記であって読み方の異なるものを指すものであり、読み方の定まらない語を包括的に指す用語として不足のないことから本稿において採用することとした[16]。

---

[13] 本稿では読み方の定まらない語に着目し、読み方の定まる語と別に考えているが、伝・中村・小木曽・小椋（2008）の述べるところによると形態素解析――やそれを前提とするコーパス構築――に当たっては「同表記異語」を区別する見出し語の認定に難があるという点において読み方の定まる「同表記同音異語」も読み方の定まらない「同表記異音語」も同様のものとして看做し得る。また、「同表記同音異語」は読み方も表記も同一のものに異なる見出し語を認定することが問題となるものであるが、それぞれの見出し語は同一の読み方であって表記の異なるもの（と捉え得るもの）であり、脚注 9 において言及した「異字同訓」とも関わるものと言える。

[14] この「類音同義同表記同語」は大島（1992）の「異音同義同表記異語」――例えば、「シリツ」とも「わたくしリツ」とも読める「私立」――とも連続したものであることから一方を積極的に除外することはせず、大島（1992）に倣って包括的に扱う立場を採る。

[15] なお、「訓」については水谷（1987: 12）に即して言えば、「読みの意味」か「音・訓と言う時のそれ」かという点に留意する必要があるが、この「音」についても同様のことが言えまいか。

[16] これ以外の用語について専門事典を見ると「異なる語でありながら表記を同じくする二つ以上の語」（石井 2014: 1454）や「同一の文字（列）から構成される異なる語源あるいは語形・意味と対応する語のペア」（野村 2018: 673）を指す「同形語」を立項するものがある。石井（2014: 1454）によると「仮名表記の場合には「同音語」と同義になるため、漢字表記される語の関係に限って同形語ということが一般的」であり、「同表記異義語」に加えて「同語の語形のゆれ」（や「別語で意味が同じ、または近いもの」）を含めたものを指すとのことである。これは「同表記同音異語」を含めず、「類音同義同表記同語」を含める本稿の立場と整合するものと見える。ただし、「同形語」は「同音異義語（homophone）すなわち同音語を含むこともある」という野村（2018: 672-673）の記述を踏まえ、採用は見送った。また、「同形語」については水谷（1970）も参考になる。

3. 読み方の定まらない語に該当する語例の整理

先行研究においては読み方の定まらない語に該当するものについて数多くの語例が挙げられてきた。ここでは今後の検討に供するために既に豊富な語例を提示している水谷・松原・坪井（1971）とその修正を試みる水谷（1972）とそれらを増補した佐竹（1987）との一連の研究に挙げられた語例に加えて武部（1988）、大島（1992）、玉村（2013）の各研究に挙げられた語例と芥川賞作品などに現れた語例とを増補し、表として整理を試みる。

3.1 語例の採否

以下に語例を整理するに当たっては最も多くの語例を挙げている水谷・松原・坪井（1971）の規準に基本的には従うこととする。すなわち、2 字の漢字表記語となる名詞に限定して語例を提示する方針を採る[17]。これは「同形語」――概ね同字異訓に相当するもの――について「一字漢字からなる同形セットは，種類は多いが，それぞれの用法の間に，ある程度の差異が認められるものが多い点で，比較的判別しやすい」とする田中（1971b: 140）の指摘や「普通は2字以上の漢字連続を指して言うことが多い」とする野村（2018: 673）の記述も踏まえたものである[18]。また、水谷・松原・坪井（1971）の規準に従う一連の研究に次いで多くの語例を挙げる武部（1988）の研究が対象を 2 字の漢字表記語に限定していることをも考慮したものである。

当然ながら同一の表記（字）であって異なる読み方（訓）のものを指して同字異訓とする以上、1 字または 3 字以上のものも漢字書き語も用言も該当するものと言えるが、本稿は 2 字の漢字表記語となる名詞について先行して整理するものである[19]。

---

[17] 菅野（2021a）と同様に「漢字表記語」は漢字のみの語を指し、「漢字書き語」は漢字を含む語を指すものである。また、「仮名」についても同様である。詳細は菅野（2021b）も参照のこと。

[18] この田中（1971b）の指摘については大島（1992）や玉村（2013）の研究に多く挙げられている1字の語例も含めて更なる検証を要するが、本稿では措くこととする。また、3字の漢字表記語となる語例については水谷・松原・坪井（1971）や大島（1992）の研究に僅かに言及がある。

[19] これに関連して石井（2014: 1455）は「同形語」について「同音語と同じく、見出し語形（辞書などで見出しとして立てられた形）と単位語形（文中での出現形）の両方で認められる」とした上で「「通る」と「通う」は、連用形「通って」でのみ同形語であるが、見出し語形では同形語ではない」とするが、同字異訓を指す「同形語」は同一の表記たるを前提とすることから仮名表記にするなどの表記の選択が随意的である以上、見出し語に認めることは少なくとも「同音語」と同様には考え難いのではないか（「見出し語形」を概ね「単位語形」を終止形に改めたものと解せば、整合する）。また、同字異訓は「通って」という文字列にも認め得ることを補足する。

また、そもそも菅野（2021a, b）の方法によって少なからぬ語に読み方を認定し得る固有名詞は水谷・松原・坪井（1971）の規準に従って原則として除外し、全ての組を数詞・助数詞の結合として扱えるものについても水谷・松原・坪井（1971）の規準に従って対象外とする[20]。

ただし、水谷・松原・坪井（1971）の規準には送り仮名によって区別し切れるものも含める点と語義の重なりが大きいものを除く点とが定められているが、この 2 点にについて本稿では従わず、送り仮名によって区別し切れるものは除き、語義の重なりの大きいものも含めることとした。このうち前者に従わないのは送り仮名がある場合に同字異訓の前提となる同一の表記であることを満たさなくなることやその場合に（漢字書き語であっても）漢字表記語ではなくなることを踏まえたものであり、後者に従わないのは水谷・松原・坪井（1971: 22）も指摘しているように「語義の概念が明らかに規定出来ない限り主観的にならざるを得ない」ことから再現性を担保し難いことや石井（2014: 1454-1455）が「同形語」のうち「別語で意味が同じ、または近いもの」――例えば、「ソウゲン」とも「くさはら」とも読める「草原」――について「意味は同じか近いとはいえ、明らかに別語であるから同形語とすべき」と指摘していることを踏まえたものである。

3.2 語例の整理

以下では同一の表記であって異なる読み方のものを指す同字異訓のうち 2 字の漢字表記語となる名詞に該当する語例の整理を試み、表として提示することとする。

この整理に当たっては前述した 6 つの文献（水谷・松原・坪井 1971; 水谷 1972; 佐竹 1987; 武部 1988; 大島 1992; 玉村 2013）を参照し、表においては(3)に示すように刊行年の若い順に A から F までの記号によって略記した。

(3)	A	水谷・松原・坪井（1971）	D	武部（1988）
	B	水谷（1972）	E	大島（1992）
	C	佐竹（1987）	F	玉村（2013）

[20] 水谷・松原・坪井（1971）によれば、固有名詞との間においてのみ同字異訓になるもの――例えば、「エイユウ」とも「ひでお」とも読める「英雄」――は除外するが、その固有名詞が普通名詞に類するもの――例えば、「シンギョウ」とも「しがらき」とも読める「信楽」――であれば、含めるとのことである。なお、数詞・助数詞の結合についてはコーパス構築を念頭に置いて小椋・小磯・冨士池・宮内・小西・原（2011）を参考としたことから水谷・松原・坪井（1971）とは認定を異にするものがある。

また、以下の表における各列は(4)に示す通りである。特に番号と読み方との2列については文献のAに当たる水谷・松原・坪井（1971）の「凡例」を参考とした。

(4)　番号　語例の1字目の画数ごとに1から始まる通し番号を与えた[21]。
語例　2字の漢字表記語となる名詞に該当する語例を示した。
読み方　語例の読み方について和語（訓読み部分）を明朝体の平仮名、漢語（音読み部分）を明朝体の片仮名、外来語をゴシック体の片仮名によって書き分けて示した。なお、外来語には丸括弧内にローマ字も併記した[22]。また、読み方を並べる際には漢語（音読み）、混種語（音訓併用）、和語（訓読み）、外来語の順とし、漢語については漢音・呉音・唐音の順とし、和語については原則として五十音順とした。更に送り仮名によって区別し切れるものには「*」、送り仮名によっても区別し切れないものには「+」を併記した[23]。
A〜F　当該の文献において表などに挙げられている場合には「○」、本文に挙げられている場合には「△」、稿末の「追記」や「補遺」などに挙げられている場合には「☆」とし、挙げられていない場合には「ー」とした。全ての文献において「ー」としたものは芥川賞作品などに現れたものである。

なお、各文献に挙げられている語例と以下の表に掲げる語例との対応関係についても順に述べる。

[21] 同画数となる場合には水谷・松原・坪井（1971）の提示する「千山江古の法」に代えて部首を参考として暫定的に並べた。なお、画数も部首も漢和辞典によって異なることには留意する必要がある。
[22] 菅野（2021a, b）においては和語、漢語、外来語をそれぞれ平仮名、片仮名、ローマ字によって書き分けたが、本稿では読み方を示すために外来語も片仮名によって書くこととし、その代わりに書体の変更とローマ字の併記とを施した。なお、このような（和語・漢語の）書き分けは既に水谷・松原・坪井（1971）や大島（1992）によって試みられているものである。
[23] 特定の分野におけるものについては水谷・松原・坪井（1971）とそれに続く水谷（1972）とが亀甲括弧によって分野を併記しており、それらを引き継ぐ佐竹（1987）は角括弧によって分野を併記しているが、本稿においては亀甲括弧に統一した上で併記することとした。なお、本稿において新たに設けたものはないことを申し添える。また、水谷・松原・坪井（1971）は送り仮名によって区別し切れるものについて全ての読み方に該当する場合に語例に「*」を併記し、一部の読み方のみに該当する場合には何も記していないが、本稿においては当該の読み方を送り仮名によって区別し切れる場合に読み方に「*」を併記した。

まず、水谷・松原・坪井（1971）の表に挙げられている 770 語については送り仮名によって区別し切れるとする 174 語のうちの 170 語と水谷（1972）や佐竹（1987）の修正を経て送り仮名によって区別し切れるものに動く 4 語とを除き、残りの計 596 語を以下の表に掲げた[24]。また、本文に例示しつつも表に挙げ忘れたものと見える 1 語と数詞・助数詞の結合として除かれた 1 語と語義の重なりが大きいとして除かれた 1 語と稿末の「追記」に挙げられている 4 語との計 7 語も追加した[25]。

これに続く水谷（1972）の表に挙げられている 15 語については送り仮名によって区別し切れるとする 2 語を除外し、計 13 語を以下の表に掲げた。また、水谷・松原・坪井（1971）に対する修正のうち送り仮名によって区別し切れるものに関係する 4 語を除外して計 11 語の修正を反映した。

これらを増補する佐竹（1987）の表に挙げられている 875 語については送り仮名によって区別し切れるとする 214 語のうちの 210 語を除き、残りの計 665 語を以下の表に掲げた[26]。また、前述した数詞・助数詞の結合として除かれた 1 語と語義の重なりが大きいとして除かれた 1 語との計 2 語を追加すると共に 1989 年刊行の初版第 2 刷に「補遺」として挙げられている計 2 語も追加した[27]。

次に武部（1988）の箇条書きの箇所に挙げられている 126 語については特定の分野における用語と「日常語」とが対応しているとする 24 語のうちの 20 語と「説明読み」とする 36 語のうちの 33 語とを除外し、計 73 語を以下の表に掲げた[28]。また、本文に挙げられている 43 語については「日常語との対応」とする全 14 語を除外し、それ以外の計 29 語を追加した。

---

[24] 送り仮名によって区別し切れるものは 172 語とあるが、正しくは 174 語であり、それらのうち「水煙」、「合着」、「利札」の 3 語と水谷（1972）が読み方に「うわもの」を追加した「上物」の 1 語との 4 語は残し、送り仮名によって区別し切れるものに動く「有無」、「乗越」、「陸続」の 3 語（水谷 1972）と「踏切」の 1 語（佐竹 1987）との 4 語は省いた。

[25] 表に挙げられているものは 771 語とあるが、正しくは 770 語であり、本文に言及はありつつも表には挙げられていない「四方」の 1 語を追加すると 771 語となる。また、数詞・助数詞の結合として除かれた「一目」の 1 語は小椋・小磯・冨士池・宮内・小西・原（2011）に従うと普通名詞になることから語義の重なりが大きいとして除かれた「草木」の 1 語と共に追加した。更に稿末に「追記」として挙げられている「入魂」、「三進」、「祭文」、「番頭」の 4 語も追加した。

[26] 214 語のうち脚注 24 に示した「上物」などの 4 語を残した。なお、脚注 92 も参照のこと。

[27] 脚注 25 に示した「一目」、「草木」の 2 語を同様に追加した。また、1989 年刊行の初版第 2 刷に「補遺」として挙げられている「正体」、「強者」の 2 語を追加した。

[28] 特定の分野における用語と「日常語」とが対応しているものと「説明読み」との両者については慎重に考え、他の文献における語例との重複や『日本国語大辞典』第 2 版における立項などを加味し、前者とする 24 語のうち「白露」、「波頭」、「石灰」、「腹痛」の 4 語を残し、後者とする 36 語のうち「利札」、「型式」、「底本」の 3 語を残した。なお、関連して脚注 55 も参照のこと。

続いて大島（1992）の箇条書きの箇所に挙げられている語例のうち 2 字の漢字表記語となる名詞に該当する計 44 語についてはそのまま以下の表に掲げた[29]。また、本文に挙げられている語例のうち対象となる 14 語については「類音同義同表記同語」とする 3 語を除き、計 11 語を追加した[30]。

これに加えて玉村（2013）の表に準ずる箇所に挙げられている語例のうち 2 字の漢字表記語となる名詞に該当する 6 語については 2 語を除外し、計 4 語を以下の表に掲げた[31]。また、本文に挙げられている語例のうち対象となる計 1 語についてはそのまま追加した。

このような整理を踏まえ、同字異訓のうち 2 字の漢字表記語となる名詞に該当する語例を表 1〜表 20 に示す。各文献との間に語例の重複があることから最終的に以下の表に掲げた語例は 763 語である。

表 1　同字異訓のうち 2 字の漢字表記語となる名詞に該当する語例（その 1）

番号	語例	読み方	A	B	C	D	E	F
1.1	一口	イッコウ, イック, ひとくち	○	―	○	―	―	―
1.2	一寸	イッスン, ちょっと	○	―	○	―	○	―
1.3	一分	イッブン, イチブン, イチブ	○	―	○	―	―	―
1.4	一手	イッテ, ひとて	○	―	○	―	―	―
1.5	一方	イッポウ, ひとかた	○	―	○	―	―	―
1.6	一日	イチジツ, イチニチ, イッぴ, ついたち, ひとひ	○	―	○	―	○[32]	―
1.7	一月	イチガツ, ひとつき	○	―	○	―	―	―
1.8	一世	イッセイ, イッセ	○	―	○	―	―	―
1.9	一目	イチモク, ひとめ	△[25]	―	△[27]	―	―	○
1.10	一石	イッセキ, イッコク	○	―	○	―	―	―
1.11	一向	イッコウ, ひたすら, ひとむき*	○	―	○	―	―	―
1.12	一行	イッコウ, イチギョウ, ひとくだり	○	―	○	―	―	―
1.13	一役	イチヤク, ひとヤク	―	―	―	○	―	―
1.14	一見	イチゲン, イッケン	―	―	○	―	―	―
1.15	一角	イッカク, ひとかど, イッかど	―	―	○	―	―	―
1.16	一言	イチゲン, イチゴン, ひとこと	―	―	―	―	―	―
1.17	一品	イッピン, イッポン	―	―	○	―	―	―
1.18	一段	イッタン, イチダン	○	―	○	―	―	―
1.19	一時	イチジ, イッとき, ひととき	○	―	○	―	○	―
1.20	一途	イット, イチズ	○	―	○	―	―	―
1.21	一期	イッキ, イチゴ〔仏〕	○	―	○	―	―	―

[29] 前述したように本稿では 2 字の漢字表記語となる名詞に限定していることから 1 字または 3 字以上のものや用言などは除外した。なお、参考として示せば、箇条書きの箇所に挙げられている 3 字の漢字表記語は「他人事」、「五月雨」、「一昨日」、「一昨年」、「明後日」の 5 語である。

[30] 11 語のうち「類音同義同表記同語」となる「試合」、「発足」、「消耗」の 3 語を省いた。

[31] 2 字の漢字表記語となる名詞に該当する 6 語のうち送り仮名によって区別し切れるものと看做し得る「一切」の 1 語と数詞・助数詞の結合となる「三月」の 1 語との 2 語を省いた。

[32] 文献 E は「ついたち」に加え、初出である「イッぴ」の 2 つのみを読み方として挙げる。

表2　同字異訓のうち2字の漢字表記語となる名詞に該当する語例（その2）

番号	語例	読み方	A	B	C	D	E	F
1.22	一端	イッタン, イッぱし	―	―	○	―	―	―
2.1	丁字	テイジ, チョウジ	○	―	○	―	―	―
2.2	二子	ニシ, ふたこ, ふたご	○	―	○	―	―	―
2.3	二分	ニフン, ニブン	○	―	○	―	―	―
2.4	二世	ニセイ, ニセ	○	―	○	―	―	―
2.5	二言	ニゴン, ふたこと	○	―	○	―	―	―
2.6	二重	ニジュウ, ふたえ	―	―	―	―	○	―
2.7	二進	ニシン, ニッチ	○	―	○	―	―	―
2.8	人人	ニンニン, ひとびと	○	―	○	―	―	―
2.9	人力	ジンリョク, ジンリキ	○	―	○	―	―	―
2.10	人口	ジンコウ, ひとぐち[33]	○	―	○	―	―	―
2.11	人中	ジンチュウ[34], ニンチュウ, ひとなか	○	―	○	―	―	―
2.12	人心	ジンシン, ひとごころ	○	―	○	―	―	―
2.13	人外	ジンガイ, ニンガイ	○	―	○	―	―	―
2.14	人気	ジンキ, ニンキ, ひとけ, ひとげ	○	―	○	―	△[35]	―
2.15	人体	ジンタイ, ニンテイ	○	―	○	―	―	―
2.16	人形	ニンギョウ, ひとがた	○	―	○	―	―	―
2.17	人足	ニンソク, ひとあし	○	―	○	○	―	―
2.18	人事	ジンジ, ひとごと	○	―	○	―	△[36]	―
2.19	人数	ニンズウ, ニンズ, ひとかず	○	―	○	―	―	―
2.20	人種	ジンシュ, ひとだね	○	―	○	―	―	―
2.21	人頭	ジントウ, ニントウ	○	―	○	―	―	―
2.22	入水	ジュスイ, ニュウスイ	○	―	○	―	―	―
2.23	入門	ニュウモン, いりかど	○	―	○	―	―	―
2.24	入院	ジュイン〔仏〕, ニュウイン	○	―	○	―	―	―
2.25	入魂	ジッコン, ニュウコン	☆[25]	―	○	―	―	―
2.26	八分	ハップン, ハチブ	○	―	○	―	―	―
2.27	十分	ジップン, ジュウブン	○	―	○	―	○[37]	―
3.1	万能	バンノウ, マンノウ	○	―	○	―	―	―
3.2	万歳	バンザイ, マンザイ	○	―	○	―	―	―
3.3	三世	サンセイ, サンゼ	―	○	○	―	―	―
3.4	三品	サンピン, サンボン〔仏〕	○	―	○	―	―	―
3.5	三進	サンシン, サッチ	☆[25]	―	○	―	―	―
3.6	上人	ショウニン, うえびと	―	○	○	―	―	―
3.7	上下	ショウカ, ジョウゲ, あげおろし, あげくだし, あげさげ, うえした, かみしも	○	―	○	―	○[38]	―
3.8	上戸	ジョウコ〔律令〕, ジョウゴ	○	―	○	―	―	―
3.9	上手	ジョウズ, うわて, かみて	○	―	○	―	―	―
3.10	上方	ジョウホウ, かみがた	○	―	○	―	―	―
3.11	上水	ジョウスイ, うわみず	○	―	○	○	―	―
3.12	上皮	ジョウヒ, うわがわ	○	―	○	―	―	―

[33] 文献Aは「ジンコウ」と「ひとくち」とを読み方として挙げ、文献Cも後者を「ひとくち」とするが、『日本国語大辞典』第2版を参考に「ひとぐち」に改めた。
[34] 文献Aは「ニンチュウ」と「ひとなか」との2つを読み方として挙げ、文献Cも同様に2つを挙げるが、『日本国語大辞典』第2版などを参考に「ジンチュウ」を加えた。
[35] 文献Eは「ニンキ」と「ひとけ」との2つのみを読み方として挙げる。
[36] 文献Eは「人事」について書き換えても読み方の定まらない別語（「他人事」）になるとする。
[37] 文献Eは「十分」について書き換えると読み方の定まる別語（「充分」）になるとする。
[38] 文献Eは「ジョウゲ」と「うえした」との2つのみを読み方として挙げる。

表 3　同字異訓のうち 2 字の漢字表記語となる名詞に該当する語例（その 3）

番号	語例	読み方	A	B	C	D	E	F
3.13	上向	うえむき+, うわむき+, かみむき+	○	―	○	―	―	―
3.14	上米	ジョウマイ, うわマイ	―	―	―	○	―	―
3.15	上物	ジョウもの, あがりもの*, うわもの[39]〔不動産業〕	○[24]	○	○[26]	△[40]	―	―
3.16	上品	ジョウヒン, ジョウボン	○	―	○	―	―	―
3.17	上面	ジョウメン, うわつら	○	―	○	―	―	―
3.18	上掛	うわかけ[41]+, うわがけ+	○	○	○	―	―	―
3.19	上棟	ジョウトウ, うわむね	―	―	―	○	―	―
3.20	上様	ジョウさま, あげさま, うえさま, かみさま	○	―	○	―	―	―
3.21	下人	ゲニン, しもびと	―	○	○	―	―	―
3.22	下下	ゲゲ, しもじも	○	―	○	―	―	―
3.23	下手	ゲシュ, したて, したで, しもて, へた	○	―	○	―	―	―
3.24	下作	ゲサク, したサク	○	―	○	―	―	―
3.25	下図	カズ, したズ	―	―	―	○	―	―
3.26	下品	ゲヒン, ゲボン	○	―	○	―	―	―
3.27	下界	カカイ〔数学〕, ゲカイ	○	―	○	―	―	―
3.28	下座	ゲザ, しもザ	○	―	○	―	―	―
3.29	乞食	コツジキ〔仏〕, コジキ	○	―	○	―	―	―
3.30	千万	センバン, センマン, ちよろず	○	―	○	―	―	―
3.31	口舌	コウゼツ, クゼツ	○	―	○	―	―	―
3.32	口数	コウスウ, くちかず	○	―	○	―	―	―
3.33	土産	ドサン, みやげ	○	―	○	―	―	―
3.34	土筆	ドヒツ, つくし	○	―	○	―	―	―
3.35	土器	ドキ, かわらけ	○	―	○	―	―	―
3.36	大人	タイジン, ダイニン, うし, おとな	○	―	○	―	―	―
3.37	大山	タイザン, おおやま	○	―	○	―	―	―
3.38	大夫	タイフ, ダイブ, タユウ	―	―	○	―	―	―
3.39	大引	おおひき+, おおびき+, おおびけ*	○	―	○	―	―	―
3.40	大戸	ダイコ〔律令〕, おおど	○	―	○	―	―	―
3.41	大手	おおて, おおで	○	―	○	―	―	―
3.42	大方	タイホウ, おおかた	○	―	○	―	―	―
3.43	大兄	タイケイ, おおあに	○	―	○	―	―	―
3.44	大札	おおサツ, おおふだ	○	―	○	―	―	―
3.45	大会	タイカイ, ダイエ〔仏〕	○	―	○	―	―	―
3.46	大名	タイメイ, ダイミョウ	○	―	○	―	―	―
3.47	大字	ダイジ, おおあざ	○	―	○	―	―	―
3.48	大兵	タイヘイ, ダイヒョウ	○	―	○	―	―	―
3.49	大君	タイクン, おおきみ	○	―	○	―	―	―
3.50	大事	ダイジ, おおごと	○	―	○	―	○	―
3.51	大姉	ダイシ, おおあね	○	―	○	―	―	―
3.52	大所	タイショ, おおどころ	○	―	○	―	―	―
3.53	大門	ダイモン, おおモン	○	―	○	―	―	―
3.54	大柄	おおヘイ, おおがら	○	―	○	―	―	―
3.55	大風	オオフウ, おおかぜ	○	―	○	―	―	―

[39] 文献 A は「ジョウもの」と「あがりもの」との 2 つを読み方として挙げるが、文献 B は「うわもの」を追加して「不動産用語の由」とし、それを文献 C は「うわもの［不動産業］」とする。
[40] 文献 D は「ジョウもの」と「うわもの」との 2 つのみを読み方として挙げる。
[41] 文献 A は「かわかけ」と「うわがけ」とを読み方として挙げるが、文献 B は前者を「うわかけ」に改めるとする。

表4　同字異訓のうち2字の漢字表記語となる名詞に該当する語例（その4）

番号	語例	読み方	A	B	C	D	E	F
3.56	大家	タイカ, タイケ, おおや	○	―	○	○	―	―
3.57	大根	ダイコン, おおね	○	―	○	―	―	―
3.58	大道	タイドウ, ダイドウ	○	―	○	―	―	―
3.59	大勢	タイセイ, タイゼイ, おおぜイ	○	―	○	―	○	―
3.60	大業	タイギョウ, おおわざ	―	―	○	―	△[42]	―
3.61	大徳	タイトク, ダイトク, ダイトコ	○	―	○	―	―	―
3.62	大綱	タイコウ, おおづな	○	―	○	―	―	―
3.63	大頭	おおあたま, おおがしら〔相撲〕	―	―	○	―	―	―
3.64	女子	ジョシ, おなご	○	―	○	―	―	―
3.65	女郎	ジョロウ, めロウ, いらつめ	○	―	○	―	―	―
3.66	小人	ショウジン, ショウニン, こびと	○	―	○	―	―	―
3.67	小刀	ショウトウ, こがたな	○	―	○	○	―	―
3.68	小字	ショウジ, こあざ	○	―	○	―	―	―
3.69	小屋	ショウオク, こや	○	―	○	―	―	―
3.70	小柄	こがら, こづか	―	―	○	―	―	―
3.71	小節	ショウセツ, こぶし	○	―	○	―	―	―
3.72	小話	ショウワ, こばなし	○	―	○	―	―	―
3.73	小額	ショウガク, こびたい	―	―	―	○	―	―
3.74	山人	サンジン, やまびと, やもうど	○	―	○	―	―	―
3.75	山子	やまこ, やまご	○	―	○	―	―	―
3.76	山川	サンセン, やまかわ, やまがわ	○	―	○	―	△[43]	―
3.77	山水	サンスイ, やまみず	○	―	○	○	―	―
3.78	山主	サンシュ, やまぬし	―	―	―	△	―	―
3.79	山気	サンキ, やまけ, やまっけ*, やまキ	○	―	○	△[44]	―	―
3.80	山風	サンプウ, やまかぜ	○	―	○	―	―	―
3.81	山間	サンカン, やまあい	○	―	○	―	―	―
3.82	川柳	センニュウ, かわやなぎ	○	―	○	―	―	―
3.83	工夫	コウフ, クフウ	○	―	○	―	△[45]	―
3.84	工場	コウジョウ, コウば	―	―	―	―	○	―
3.85	弓形	キュウケイ, ゆみなり	○	―	○	―	―	―
4.1	中日	チュウニチ, なかび	○	―	○	―	―	―
4.2	中古	チュウコ, チュウぶる	○	―	○	―	―	―
4.3	中米	チュウベイ, チュウマイ	○	―	○	―	―	―
4.4	中空	チュウクウ, なかぞら	○	―	○	―	―	―
4.5	中点	チュウテン, なかテン[46]〔印刷〕	―	○	○	―	―	―
4.6	中座	チュウザ, なかザ	○	―	○	―	―	―
4.7	中細	チュウぼそ, なかぼそ	○	―	○	○	―	―
4.8	中道	チュウドウ, なかみち	○	―	○	―	―	―
4.9	中間	チュウカン, チュウゲン	○	―	○	―	―	―
4.10	中腹	チュウフク, チュウばら, チュウっぱら*	―	―	○	―	―	―
4.11	五分	ゴフン, ゴブ	○	―	○	―	―	―

[42] 文献Eは「大業」について書き換えると読み方の定まる別語（「大技」）になるとする。
[43] 文献Eは「やまかわ」と「やまがわ」との2つのみを読み方として挙げる。
[44] 文献Dは「サンキ」に加え、初出である「やまキ」の2つのみを読み方として挙げる。
[45] 文献 E は表記に言及せずに「コウフ」と「クフウ」とを挙げていることから「工夫」のことであると判断した。
[46] 文献Bは「チュウテン」と「なかてん〔印刷用語〕」とを読み方として挙げるが、文献Cは後者を「なかテン［印刷］」とする。

表 5　同字異訓のうち 2 字の漢字表記語となる名詞に該当する語例（その 5）

番号	語例	読み方	A	B	C	D	E	F
4.12	今日	コンニチ, きょう	○	―	○	―	○	△
4.13	仏心	ブッシン, ほとけごころ	○	―	○	○	―	―
4.14	仏国	フッコク, ブッコク	○	―	○	―	―	―
4.15	仏性	ブッショウ, ほとけショウ	○	―	○	―	―	―
4.16	仏法	フッポウ, ブッポウ	○	―	○	―	―	―
4.17	仏書	フッショ, ブッショ	○	―	○	―	―	―
4.18	仏語	フツゴ, ブツゴ	○	―	○	―	―	―
4.19	公式	コウシキ, クシキ	○	―	○	―	―	―
4.20	公達	キンダチ, コウタツ	―	―	○	―	―	―
4.21	六合	リクゴウ, ロクゴウ	○	―	○	―	―	―
4.22	内内	ナイナイ, うちうち	―	―	―	―	―	―
4.23	内法	ナイホウ, うちのり	―	○	○	―	―	―
4.24	内海	ナイカイ, うちうみ	○	―	○	―	―	―
4.25	内省	ナイセイ, ナイショウ	―	―	―	―	―	―
4.26	内面	ナイメン, うちづら	○	―	○	○	―	―
4.27	内幕	ナイマク, うちマク[47]	○	―	○	―	―	―
4.28	内輪	ナイリン, うちわ	○	―	○	―	―	―
4.29	分力	ブンリョク〔物理〕, ブンリキ	○	―	○	―	―	―
4.30	分別	フンベツ, ブンベツ	○	―	○	―	―	―
4.31	切手	きって, きりて	○	―	○	―	―	―
4.32	切場[48]	セッば, きりば	○	○	○	―	―	―
4.33	化生	カセイ, ケショウ	○	―	○	―	―	―
4.34	化学	カガク, ばけガク	―	―	―	―	○	―
4.35	天人	テンジン, テンニン	○	―	○	―	―	―
4.36	天日	テンジツ, テンび	○	―	○	○	―	―
4.37	天火	テンカ, テンぴ[49]	○	―	○	―	―	―
4.38	天道	テントウ, テンドウ	○	―	○	―	―	―
4.39	引手	ひきて+, ひきで+, ひくて*	○	―	○	―	―	―
4.40	心中	シンチュウ, シンヂュウ	○	―	○	―	○	―
4.41	心底	シンテイ, シンそこ	○	―	○	―	―	―
4.42	心法	シンポウ, シンボウ〔仏〕	○	―	○	―	―	―
4.43	心算	シンサン, シンザン, つもり	○	―	○	―	―	―
4.44	戸口	ココウ, とぐち	○	―	○	―	―	―
4.45	戸前	とさき, とまえ	○	―	○	―	―	―
4.46	手水	てみず, ちょうず	○	―	○	―	―	―
4.47	手代	てダイ, てしろ	○	―	○	―	―	―
4.48	手札	シュサツ, てふだ	○	―	○	―	―	―
4.49	手取	てとり+, てどり+	○	―	○	―	―	―
4.50	手前	てまえ, てめえ	○	―	○	―	―	―
4.51	手書	シュショ, てかき+, てがき+	○	―	○[50]	―	―	―
4.52	手数	てスウ, てかず〔囲碁〕	―	―	○	―	―	―
4.53	手練	シュレン, てだれ, てレン	○	―	○	―	―	―

[47] 文献 A は「ナイマク」と「うちまく」とを読み方として挙げるが、文献 C は後者を「うちマク」とする。
[48] 文献 A は「切揚」を語例として挙げるが、文献 B は「切場」に改めるとする。
[49] 文献 A は「テンジツ」と「テンび」とを読み方として挙げるが、文献 C は後者を「テンぴ」とする。
[50] 文献 C は「シュショ」と「てがき」との 2 つのみを読み方として挙げる。

表 6　同字異訓のうち 2 字の漢字表記語となる名詞に該当する語例（その 6）

番号	語例	読み方	A	B	C	D	E	F
4.54	手懸	てかけ+, てがけ+, てがかり*	○	―	○	―	―	―
4.55	文体	ブンテイ, ブンタイ	○	―	○	―	―	―
4.56	文言	ブンゲン, モンゴン	○	―	○	―	―	―
4.57	文選	ブンセン, モンゼン	○	―	○	―	―	―
4.58	方方	ホウボウ, かたがた	○	―	○	―	○	―
4.59	日日	ニチニチ, ひび, ひニチ	○	―	○	―	○	―
4.60	日向	ひなた, ひゅうが〔国〕	○	―	○	―	―	―
4.61	月日	ガッピ, つきひ	―	―	―	―	○	―
4.62	月代	さかやき, つきしろ	○	―	○	―	―	―
4.63	木口	きぐち, こぐち	○	―	○	―	―	―
4.64	木目	モクめ, きめ	○	―	○	―	―	―
4.65	木馬	モクバ, きうま	○	―	○	―	―	―
4.66	木場	きば, こば	○	―	○	―	―	―
4.67	木端	こっぱ*, こば	○	―	○	―	―	―
4.68	木綿	モメン, きわた, ゆう	○	―	○	―	―	―
4.69	氏名	シメイ, うじな	―	―	―	○	―	―
4.70	水上	スイジョウ, みなかみ	○	―	○	―	―	―
4.71	水土	スイド, みずつち	―	―	―	○	―	―
4.72	水心	スイシン, みずごころ	―	―	―	○	―	―
4.73	水玉	スイギョク, みずたま	○	―	○	―	―	―
4.74	水気	スイキ, みずけ	○	―	○	―	―	―
4.75	水色	スイショク, みずいろ	○	―	○	△	―	―
4.76	水車	スイシャ, みずぐるま	○	―	○	―	―	―
4.77	水底	スイテイ, みなそこ	―	―	―	―	―	―
4.78	水道	スイドウ, みずみち	○	―	○	―	―	―
4.79	水煙	スイエン, みずけむり	○[24]	―	○[26]	―	―	―
4.80	水墨	スイボク, みずずみ	―	―	―	○	―	―
4.81	火口	カコウ, ひぐち, ほくち	○	―	○	○[51]	―	―
4.82	火床	カショウ, ひどこ	○	―	○	―	―	―
4.83	火煙	カエン, ひけむり	―	―	―	○	―	―
4.84	爪弾	つまはじき+, つまびき+	―	―	○	―	―	―
4.85	父母	フボ, ちちはは	―	―	―	―	○	―
4.86	片刃	かたは, かたば	○	―	○	―	―	―
4.87	片方	かたホウ, かたえ	○	―	○	―	―	―
4.88	片言	ヘンゲン, かたこと	○	―	○	―	―	―
4.89	片端	かたはし, かたわ	○	―	○	―	―	―
4.90	牛屋	ギュウや, うしや	―	―	―	○	―	―
4.91	牛馬	ギュウバ, うしうま	―	―	―	△	―	―
5.1	世論	セロン, ヨロン[52]	―	―	―	―	○	―
5.2	主従	シュジュウ, シュウジュウ	○	―	○	―	―	―
5.3	仕業	シギョウ, しわざ	―	―	―	○	―	―
5.4	仕様	しヨウ, しざま	○	―	○	―	―	―
5.5	代代	ダイダイ, よよ	○	―	○	―	―	―
5.6	代物	ダイブツ, ダイモツ, しろもの	○	―	○	―	―	―
5.7	出処	シュッショ, でどころ	○	―	○	―	―	―
5.8	出生	シュッセイ, シュッショウ, スイサン〔仏〕	○	―	○	―	―	―

[51] 文献 D は「カコウ」と「ひぐち」との 2 つのみを読み方として挙げる。
[52] この読み方については「よロン」とせず、文献 E や『新潮現代国語辞典』第 2 版などに従って「ヨロン」とした。なお、田中（1978: 322）などの議論も参照のこと。

表 7　同字異訓のうち 2 字の漢字表記語となる名詞に該当する語例（その 7）

番号	語例	読み方	A	B	C	D	E	F
5.9	出来	シュッタイ, でき	○	―	○	―	―	―
5.10	出店	シュッテン, でみせ	―	―	―	○	―	―
5.11	出所	シュッショ, でどころ	○	―	○	―	―	―
5.12	出金	シュッキン, でがね	○	―	○	―	―	―
5.13	出家	シュッケ, でいえ	○	―	○	―	―	―
5.14	出張	シュッチョウ, でっぱり*, でばり*	○	―	○	―	―	―
5.15	出場	シュツジョウ, でば	○	―	○	○	―	―
5.16	出端	でばな, では〔能楽〕	―	―	○	―	―	―
5.17	出頭	シュットウ, でがしら	―	―	―	△	―	―
5.18	功徳	コウトク, クドク	○	―	○	―	―	―
5.19	加重	カチョウ〔法〕, カジュウ	○	―	○	―	―	―
5.20	半切	ハンセツ, ハンきり+, ハンぎり+	○	―	○	―	―	―
5.21	半月	ハンゲツ, ハンつき	―	―	○	△	―	―
5.22	半生	ハンセイ, ハンショウ, ハンなま	○	―	○	○[53]	―	―
5.23	半年	ハンネン, ハンとし	―	―	―	―	―	―
5.24	半身	ハンシン, ハンみ	○	―	○	―	―	―
5.25	半間	ハンゲン, ハンま	○	―	○	―	―	―
5.26	半銭	ハンセン, きなか	○	―	○	―	―	―
5.27	古本	コホン, ふるホン	―	―	○	○	―	―
5.28	四方	シホウ, よも	△[25]	―	○	―	―	―
5.29	四角	シカク, よつかど, よすみ	○	―	○	―	―	―
5.30	四時	シジ, シイジ, よジ	○	―	○	―	―	―
5.31	外車	ガイシャ, そとぐるま	○	―	○	○	―	―
5.32	外法	ゲホウ, そとのり	―	○	○	―	―	―
5.33	外相	ガイショウ, ゲソウ	○	―	○	―	―	―
5.34	外面	ガイメン, ゲメン, そとづら	○	―	○	―	―	―
5.35	外輪	ガイリン, そとわ	○	―	○	―	―	―
5.36	外壁	ガイヘキ, そとかべ	―	―	―	△	―	―
5.37	左右	サユウ, ソウ	○	―	○	○[54]	―	―
5.38	左側[55]	サソク, ひだりがわ	―	―	―	△[55]	―	―
5.39	市立	シリツ, いちリツ	―	―	―	△[55]	○	―
5.40	市場	シジョウ, いちば	○	―	○	―	○	―
5.41	平城	ヘイジョウ, なら, ひらジョウ, ひらじろ	○	―	○	―	―	―
5.42	平面	ヘイメン, ひらづら	○	―	○	―	―	―
5.43	打金	うちキン+, うちがね+	○	―	○	―	―	―
5.44	末期	マッキ, マツゴ	○	―	○	―	―	―
5.45	末葉	バツヨウ, マツヨウ, すえは	○	―	○	―	―	―

[53] 文献 D は「ハンセイ」と「ハンなま」との 2 つのみを読み方として挙げる。

[54] 文献 D は「サユウ」と「ひだりみぎ」とを読み方として挙げるが、後者は「左と右を入れ違えたときの言い方」とする武部（1988: 6）の記述を踏まえ、省くこととした。

[55] 文献 D は 1 字目が「左」となる語例について箇条書きの箇所に 13 語を挙げているが、これらのうちの 12 語は「決して正式な読み方ではないが、機に応じて行われている読み方」（武部 1988: 9）を指す「説明読み」に該当するものとして挙げられていることから本文に挙げられている「左側」と「説明読み」に該当するものとして挙げられていない「左右」とを残し、それ以外の 12 語は省いた。また、「左側」は「日常語との対応」に該当するものとしても挙げられているが、文献 D において繰り返し挙げられていることから重要な語例と考え、除かないこととした。なお、文献 D の本文に挙げられている 43 語について「日常語との対応」に該当する全 14 語を除外した 29 語のうち「説明読み」に該当するものは「左側」と「市立」と「私立」との全 3 語である。

表 8　同字異訓のうち 2 字の漢字表記語となる名詞に該当する語例（その 8）

番号	語例	読み方	A	B	C	D	E	F
5.46	本文	ホンブン, ホンモン	○	―	○	―	―	―
5.47	本行	ホンコウ, ホンギョウ	―	○	○	―	―	―
5.48	本命	ホンメイ, ホンミョウ	○	―	○	―	―	―
5.49	本屋	ホンオク, ホンや	―	―	○	―	―	―
5.50	本船	ホンセン, もとぶね	○	―	○	―	―	―
5.51	本間	ホンケン, ホンま	○	―	○	―	―	―
5.52	正文	セイブン, ショウモン	○	―	○	―	―	―
5.53	正本	セイホン, ショウホン	○	―	○	―	―	―
5.54	正当	セイトウ, ショウトウ	○	―	○	―	―	―
5.55	正気	セイキ, ショウキ	○	―	○	―	―	―
5.56	正体	セイタイ〔文字〕, ショウタイ	―	―	☆[27]	―	―	―
5.57	正味	セイミ, ショウミ	○	―	○	―	―	―
5.58	正直	セイチョク, ショウジキ	○	―	○	―	―	―
5.59	正業	セイギョウ, ショウゴウ〔仏〕	○	―	○	―	―	―
5.60	母屋	おもや, もや〔大工〕	○	―	○	―	―	―
5.61	氷室	ヒョウシツ, ひむろ	―	―	―	○	―	―
5.62	氷柱	ヒョウチュウ, つらら	○	―	○	―	―	―
5.63	玉石	ギョクセキ, たまいし	○	―	○	―	―	―
5.64	玉音	ギョクイン, ギョクオン	○	―	○	―	―	―
5.65	生地	セイチ, きジ	―	―	○	―	―	―
5.66	生年	セイネン, ショウネン, うまれどし*	○	―	○	―	―	―
5.67	生物	セイブツ, いきもの, なまもの	―	―	○	―	○	―
5.68	生魚	セイギョ, なまうお, なまざかな	○	―	○	○	―	―
5.69	生麩	ショウフ, なまフ	―	―	○	―	―	―
5.70	甲板	カンパン, コウいた	○	―	○	―	―	―
5.71	甲高	カンだか, コウだか	○	―	○	―	―	―
5.72	白土	ハクド, しらつち	○	―	○	―	―	―
5.73	白子	しらス, しらこ, しろこ	○	―	○	―	―	―
5.74	白木	しらき, しろき〔建〕	○	―	○	―	―	―
5.75	白玉	ハクギョク, しらたま	○	―	○	―	―	―
5.76	白白	しらじら, しろじろ	○	―	○	―	―	―
5.77	白地	しらジ, しろジ	―	―	○	―	―	―
5.78	白金	ハッキン, しろがね, しろかね	○	―	○	―	―	―
5.79	白炭	ハクタン, しろずみ	○	―	○	―	―	―
5.80	白面	ハクメン, しらふ	○	―	○	―	―	―
5.81	白粉	ハクフン, おしろい	○	―	○	―	―	―
5.82	白酒	ハクシュ, しろざけ	―	―	―	△	―	―
5.83	白魚	ハクギョ, しらうお, しろうお	○	―	○	―	―	―
5.84	白鳥	ハクチョウ, しらとり	○	―	○	―	―	―
5.85	白湯	さゆ, **パイタン**（bái tāng）	―	―	―	―	―	―
5.86	白熊	しろくま, はぐま	―	―	○	―	―	―
5.87	白髪	ハクハツ, しらが	―	―	―	―	―	―
5.88	白頭	ハクトウ, しろがしら〔能楽〕	○	―	○	―	―	―
5.89	白露	ハクロ[56]〔ロシア〕, しらつゆ	○	―	○	○[28]	―	―
5.90	目下	モッカ, めした, めもと	○	―	○	○[57]	―	○[57]

[56] 文献 D は「ハクロ」と「しらつゆ」とを読み方として挙げるが、後者も「シロイツユ」（武部 1988: 8）の意とのことである。
[57] 文献 D は「モッカ」と「めした」との 2 つのみを読み方として挙げる。また、文献 F も同様に「モッカ」と「めした」との 2 つのみを読み方として挙げる。

表 9　同字異訓のうち 2 字の漢字表記語となる名詞に該当する語例（その 9）

番号	語例	読み方	A	B	C	D	E	F
5.91	石灰	セッカイ, いしばい	―	―	―	○[28]	―	―
5.92	石室	セキシツ[58]〔考古〕, いしむろ	○	―	○	―	―	―
5.93	石高	コクだか, いしだか	○	―	○	―	―	―
5.94	礼拝	レイハイ〔神道, Chr〕, ライハイ〔仏〕	○	―	○	―	△[59]	―
6.1	仮名	カメイ, ケミョウ, かな, かりな	○	―	○	―	―	―
6.2	仮免	カメン, かりメン	―	―	―	○	―	―
6.3	仮借	カシャク, カシャ	―	―	○	―	―	―
6.4	仲人	チュウニン, なこうど	○	―	○	―	―	―
6.5	仲間	チュウゲン, なかま	○	―	○	―	―	―
6.6	会衆	カイシュウ, エシュ〔仏〕	○	―	○	―	―	―
6.7	先手	センて, さきて	○	―	○	―	―	―
6.8	先取	センシュ, さきどり	―	―	○	―	―	―
6.9	再建	サイケン, サイコン	―	―	○	―	―	―
6.10	合力	ゴウリョク〔物理〕, ゴウリキ	○	―	○	―	―	―
6.11	合印	あいイン+, あいじるし+	―	―	○	―	―	―
6.12	合着	ゴウチャク, あいぎ*	○[24]	―	○[26]	―	―	―
6.13	合端	あいは+, あいば+	○	―	○	―	―	―
6.14	合歓	ゴウカン, ねむ	○	―	○	―	―	―
6.15	同人	ドウジン, ドウニン	○	―	○	―	―	―
6.16	同行	ドウコウ, ドウギョウ	○	―	○	―	―	―
6.17	同胞	ドウホウ, はらから	○	―	○	―	―	―
6.18	名代	ミョウダイ, なダイ, なしろ	○	―	○	○[60]	―	―
6.19	回心	カイシン〔Chr〕, エシン〔仏〕	○	―	○	―	―	―
6.20	在世	ザイセイ, ザイセ〔仏〕	○	―	○	―	―	―
6.21	在米	ザイベイ, ザイマイ	○	―	○	―	―	―
6.22	在所	ザイショ, ありか+, ありどころ+	○	―	○	―	―	―
6.23	在家	ザイカ, ザイケ〔仏〕	○	―	○	―	―	―
6.24	地力	チリョク, ジリキ	○	―	○	―	―	―
6.25	地下	チカ, ジゲ	―	―	○	―	―	―
6.26	地方	チホウ, ジかた〔歌舞〕	○	―	○	―	―	―
6.27	地名	チメイ, ジミョウ	○	―	○	―	―	―
6.28	地形	チケイ, ジギョウ	○	―	○	―	―	―
6.29	地取	ジとり+〔能楽〕, ジどり+	○	―	○	―	―	―
6.30	地味	チミ, ジミ	○	―	○	―	―	―
6.31	地物	チブツ, ジもの	―	―	○	―	―	―
6.32	地面	ジメン, ジづら	○	―	○	○	―	―
6.33	地雷	ジライ, ジがみなり	―	―	―	○	―	―
6.34	地質	チシツ, ジシツ	○	―	○	―	―	―
6.35	地頭	ジトウ, ジあたま, ジがしら	○	―	○	―	―	―
6.36	好事	コウジ, コウズ	○	―	○	―	―	―
6.37	妄想	モウソウ, モウゾウ	○	―	○	―	―	―
6.38	安心	アンシン, アンジン〔仏〕	○	―	○	―	―	―
6.39	安居	アンキョ, アンゴ〔仏〕	○	―	○	―	―	―

[58] 文献 A は「せきしつ〔考古〕」と「いしむろ」とを読み方として挙げ、文献 C は前者を「せきしつ［考古］」とするが、『新潮現代国語辞典』第 2 版などを参考に「セキシツ」に改めた。
[59] 文献 E は表記に言及せずに「レイハイ」と「ライハイ」とを挙げていることから「礼拝」のことであると判断した。
[60] 文献 D は「ミョウダイ」と「なダイ」との 2 つのみを読み方として挙げる。

表 10　同字異訓のうち 2 字の漢字表記語となる名詞に該当する語例（その 10）

番号	語例	読み方	A	B	C	D	E	F
6.40	年月	ネンゲツ, としつき	―	―	―	△	○	―
6.41	年頭	ネントウ, としがしら	○	―	○	―	―	―
6.42	当今	トウギン, トウコン	○	―	○	―	―	―
6.43	成敗	セイハイ, セイバイ	○	―	○	―	―	―
6.44	早生	ソウセイ, はやうまれ*, わせ	○	―	○	―	―	―
6.45	早早	ソウソウ, はやばや	○	―	○	△	―	―
6.46	有体	ユウタイ, ウタイ〔仏〕	―	―	○	―	―	―
6.47	有形	ユウケイ, ありがたち*	○	―	○	―	―	―
6.48	有為	ユウイ, ウイ〔仏〕	○	―	○	―	―	―
6.49	死期	シキ, シゴ〔仏〕	○	―	○	―	―	―
6.50	毎年	マイネン, マイとし	―	―	―	―	○	―
6.51	気付	キづき*, キつけ+, キづけ+	○	―	○	―	―	―
6.52	気色	キショク, ケシキ	○	―	○	―	―	―
6.53	気風	キフウ, キップ*	○	―	○	―	―	―
6.54	気配	キハイ〔株式〕, キくばり[61]*, けはい	○	―	○	―	―	―
6.55	気骨	キコツ, キぼね	○	―	○	―	―	―
6.56	気質	キシツ, かたぎ	○	―	○	―	―	―
6.57	百合	ヒャクゴウ, ゆり	○	―	○	―	―	―
6.58	百足	ヒャクソク, むかで	○	―	○	―	―	―
6.59	百姓	ヒャクセイ, ヒャクショウ	○	―	○	―	―	―
6.60	竹篦	シッペイ〔禅〕, たけべら	―	―	○	―	―	―
6.61	米船	ベイセン, こめぶね	―	―	―	○	―	―
6.62	肉食	ニクショク, ニクジキ〔仏〕	○	―	○	―	―	―
6.63	肋骨	ロッコツ, あばらぼね	―	―	―	―	―	―
6.64	舌音	ゼツオン, したおと	―	―	―	○	―	―
6.65	色紙	シキシ, いろがみ	○	―	○	―	―	―
6.66	行人	コウジン, ギョウニン	○	―	○	―	―	―
6.67	行方	いきかた+, ゆきかた+, ゆきがた+, ゆくえ	○	―	○	―	―	―
6.68	行者	ギョウジャ, アンジャ〔禅〕	○	―	○	―	―	―
7.1	乱文	ランブン, ランモン	○	―	○	―	―	―
7.2	体相	テイソウ, タイソウ	○	―	○	―	―	―
7.3	何人	なにジン[62], なんニン, なにびと, なんびと, なんぴと	○	―	○	―	―	―
7.4	何分	なんプン, なにブン	○	―	○	―	―	―
7.5	何方	どちら, どなた	○	―	○	―	―	―
7.6	何時	いつ, なんどき	○	―	○	―	―	―
7.7	余波	よは, なごり	○	―	○	―	―	―
7.8	作法	サクホウ, サホウ	○	―	○	―	―	―
7.9	作物	サクブツ, サクモツ, つくりもの*	―	―	○	―	―	―
7.10	冷酒	レイシュ, ひやざけ*	○	―	○	―	―	―
7.11	初心	ショシン, うぶ	○	―	○	―	―	―
7.12	初日	ショニチ, はつび, はつひ	○	―	○	○[63]	―	―

[61] 文献 A は「キハイ」と「けはい」との 2 つを読み方として挙げるが、文献 C は両者に追加して「キくばり」を挙げる。

[62] 文献 A は「なんニン」と「なにびと」と「なんびと」と「なんぴと」との 4 つを読み方として挙げ、文献 C も同様に 4 つを挙げるが、本稿では「なにジン」を加えた。ただし、少なくとも「なんニン」については小椋・小磯・冨士池・宮内・小西・原（2011）に従うと数詞・助数詞の結合として扱われる可能性がある。

[63] 文献 D は「ショニチ」と「はつひ」との 2 つのみを読み方として挙げる。

表 11　同字異訓のうち 2 字の漢字表記語となる名詞に該当する語例（その 11）

番号	語例	読み方	A	B	C	D	E	F
7.13	利札	リサツ, リふだ, ききふだ*	○[24]	—	○[26]	○[64]	—	—
7.14	利金	リキン, リがね	—	—	—	○	—	—
7.15	利益	リエキ, リヤク	○	—	○	—	—	—
7.16	卵形	ランケイ, たまごがた	—	—	—	○	—	—
7.17	呂律	リョリツ, ロレツ[65]	○	—	○	—	—	—
7.18	図画	ズガ, トガ[66]	—	—	—	—	○	—
7.19	図柄	ズヘイ, ズがら	○	—	○	—	—	—
7.20	声色	セイショク, こわいろ	○	—	○	—	—	—
7.21	声明	セイメイ, ショウミョウ〔仏〕	○	—	○	—	—	—
7.22	声音	セイオン, こわね	○	—	○	—	—	—
7.23	声聞	セイブン, ショウモン〔仏〕	○	—	○	—	—	—
7.24	尾骨	ビコツ, おぼね	○	—	○	—	—	—
7.25	尾鰭	おひれ, おびれ	○	—	○	—	○	—
7.26	形相	ケイソウ〔哲学〕, ギョウソウ	○	—	○	—	—	—
7.27	役所	ヤクショ, ヤクどころ	○	—	○	—	—	—
7.28	技手	ギシュ, ギて	—	—	—	—	○	—
7.29	折伏	セップク, シャクブク〔仏〕	○	—	○	—	—	—
7.30	攻口	せめくち, せめぐち	○	—	○	—	—	—
7.31	更衣	コウイ, ころもがえ	○	—	○	—	—	—
7.32	来日	ライジツ, ライニチ	○	—	○	—	—	—
7.33	来春[67]	ライシュン, ライはる	—	—	—	—	○	—
7.34	求道	キュウドウ〔Chr〕, グドウ〔仏〕	○	—	○	—	—	—
7.35	男女	ダンジョ, ナンニョ, おとこおんな	○	—	○	○[68]	△[68]	—
7.36	男気	おとこぎ, おとこけ	○	—	○	—	—	—
7.37	町中[69]	まちヂュウ, まちなか	○	—	○	—	—	—
7.38	禿筆	トクヒツ, ちびふで*	○	—	○	—	—	—
7.39	私立	シリツ, わたくしリツ	—	—	—	△[55]	○	—
7.40	花鳥	カチョウ, はなとり, はなどり	○	—	○	—	—	—
7.41	花道	カドウ, はなみち	—	—	○	—	—	—

[64] 文献 D は「リサツ」と「リふだ」との 2 つのみを読み方として挙げる。なお、脚注 28 も参照のこと。

[65] 文献 A は「リョリツ」と「ろれつ」とを読み方として挙げ、文献 C は後者を「ロれつ」とするが、『新潮現代国語辞典』第 2 版などに従って「ロレツ」とした。

[66] 文献 E は「トガ」と「ズガ」とを読み方として挙げ、前者を「法令用語」とする。なお、本稿では他の文献における語例との重複や『日本国語大辞典』第 2 版における立項なども加味しつつ語例の採否を判じたが、武部（1988）において「日常語との対応」に該当する語例の多くを省きながら水谷・松原・坪井（1971）の規準に従う一連の研究や大島（1992）に特定の分野における用語との記載のある語例を残すことの整合性については留保し、再考の余地が残ることを示すに留める。 なお、「説明読み」に該当する語例の採否についても整合性に課題がある（脚注 67）。

[67] これに類するものとして文献 D は「来秋」――「説明読み」に該当するもの――を語例として挙げるが、『日本国語大辞典』第 2 版が「来春」――「説明読み」に相当する「異音同義同表記異語」に該当するもの――は立項するのに対して「来秋」は立項していないことから「来春」は残し、「来秋」は省いた。このような「説明読み」に該当する語例の採否については更なる検討の余地がある。なお、関連して脚注 28 や脚注 66 も参照のこと。

[68] 文献 D は「ダンジョ」と「おとこおんな」との 2 つのみを読み方として挙げる。また、文献 E も同様に「ダンジョ」と「おとこおんな」との 2 つのみを読み方として挙げる。

[69] いずれの文献にも挙げられていないが、これは「街中」という表記も考えられる。

表 12　同字異訓のうち 2 字の漢字表記語となる名詞に該当する語例（その 12）

番号	語例	読み方	A	B	C	D	E	F
7.42	見物	ケンブツ, みもの	○	―	○	△	―	―
7.43	見様	みヨウ, みざま	○	―	○	○	―	―
7.44	角材	カクザイ, かどザイ	―	―	―	○	―	―
7.45	角柱	カクチュウ, かどばしら	―	―	―	○	―	―
7.46	赤面	セキメン, あかつら	○	―	○	○	―	―
7.47	赤裸	セキラ, あかはだか	○	―	○	―	―	―
7.48	足力	ソクリョク, ソクリキ	○	―	○	―	―	―
7.49	足下	ソッカ, あしもと	○	―	○	―	―	―
7.50	足代	あしダイ, あししろ	―	―	―	○	―	―
7.51	足取	あしとり+, あしどり+	○	―	○	―	―	―
7.52	足跡	ソクセキ, あしあと	○	―	○	―	○	―
7.53	身上	シンショウ, シンジョウ, みのうえ*	○	―	○	―	―	―
7.54	身代	シンダイ, みのしろ*	―	○	○	―	―	―
7.55	身体	シンタイ, からだ	―	―	―	―	―	―
7.56	車馬	シャバ, くるまうま	―	―	―	△	―	―
7.57	近火	キンカ, ちかび	○	―	○	―	―	―
7.58	近近	キンキン, ちかぢか	―	―	―	―	―	―
8.1	事典	ジテン, ことテン	―	―	―	―	○	―
8.2	事故	ジコ, ことゆえ	○	―	○	―	―	―
8.3	供米	キョウマイ, クマイ	○	―	○	―	―	―
8.4	取得	シュトク, とりドク+, とりえ+	○	―	○	―	―	―
8.5	受領	ジュリョウ, ズリョウ	○	―	○	―	―	―
8.6	和名	ワメイ, ワミョウ	○	―	○	―	―	―
8.7	和音	カオン, ワオン	○	―	○	―	―	―
8.8	国境[70]	コッキョウ, くにざかい	―	―	―	△	○	―
8.9	夜中	ヤチュウ, よなか, よるジュウ	―	―	○	―	―	―
8.10	定規	テイキ, ジョウギ	○	―	○	―	―	―
8.11	実方	ジツかた, ジツがた〔劇〕	○	―	○	―	―	―
8.12	実体	ジッテイ, ジッタイ	○	―	○	―	―	―
8.13	実事	ジツジ, ジツごと	―	―	―	○	―	―
8.14	実物	ジツブツ, みもの〔活花〕	―	―	○	△	―	―
8.15	実業	ジツギョウ, ジツゴウ〔仏〕	○	―	○	―	―	―
8.16	底本	テイホン, そこホン	―	―	―	○[28]	○	―
8.17	性根	ショウコン, ショウね	○	―	○	―	―	―
8.18	性悪	セイアク, ショウわる	○	―	○	―	―	―
8.19	所為	ショイ, セイ	○	―	○	―	―	―
8.20	押手	おして, おしで	○	―	○	―	―	―
8.21	放下	ホウカ, ホウゲ	○	―	○	―	―	―
8.22	明日	ミョウニチ, あした, あす	―	―	―	―	○	○
8.23	明白	メイハク, あきしろ*	○	―	○	―	―	―
8.24	明明	メイメイ, あかあか	―	―	―	△	―	―
8.25	明朝	ミョウチョウ, ミョウあさ, ミンチョウ	―	―	○	―	―	―
8.26	毒気	ドッキ, ドクけ	○	―	○	―	―	―
8.27	河岸	かし, かわぎし	○	―	○	―	―	―
8.28	法力	ホウリョク, ホウリキ	○	―	○	―	―	―
8.29	法文	ホウブン, ホウモン	○	―	○	―	―	―
8.30	法界	ホウカイ, ホッカイ〔仏〕	○	―	○	―	―	―
8.31	法相	ホウショウ, ホッソウ〔仏〕	○	―	○	―	―	―

[70] この語例については脚注 99 も参照のこと。

表 13　同字異訓のうち 2 字の漢字表記語となる名詞に該当する語例（その 13）

番号	語例	読み方	A	B	C	D	E	F
8.32	波形	ハケイ, なみがた	○	―	○	―	―	―
8.33	波頭	ハトウ, なみがしら	○	―	○	○[28]	―	―
8.34	牧場	ボクジョウ, まきば	―	―	―	―	○	―
8.35	物心	ブッシン, ものごころ	○	―	○	―	―	―
8.36	物怪	モッケ, もののけ	○	―	○	―	―	―
8.37	玩具	ガング, おもちゃ	―	―	―	―	―	―
8.38	直下	チョッカ, ジキゲ	○	―	○	―	―	―
8.39	直心	ジキシン〔仏〕, ひたごころ	○	―	○	―	―	―
8.40	直面	チョクメン, ひたメン, ひたおもて〔能楽〕	○	―	○	―	―	―
8.41	直筆	チョクヒツ, ジキヒツ	○	―	○	―	―	―
8.42	直答	チョクトウ, ジキトウ	○	―	○	―	―	―
8.43	知行	チコウ, チギョウ	―	○	○	―	―	―
8.44	空手	クウシュ, あきて, からて, そらで	○	―	○	―	―	―
8.45	空言	クウゲン, そらごと	―	―	○	―	―	―
8.46	空間	クウカン, あきま+, すきま+	○	―	○	―	―	―
8.47	苦汁	クジュウ, にがり	○	―	○	―	―	―
8.48	金口	キンコウ, コンク〔仏〕, キンぐち[71]	○	―	○	―	―	―
8.49	金山	キンザン, かなやま	○	―	○	○	―	―
8.50	金玉	キンギョク, キンたま[72]	○	―	○	―	―	―
8.51	金目	キンめ, かねめ	―	―	―	―	―	―
8.52	金印	キンイン, かなイン	―	―	―	○	―	―
8.53	金地	キンジ, コンチ〔仏〕	○	―	○	―	―	―
8.54	金気	キンキ, かなけ, かねっけ*	○	―	○	―	―	―
8.55	金色	コンジキ, キンいろ, かないろ	○	―	○	―	―	―
8.56	金星	キンセイ, キンぼし〔相撲〕	○	―	○	△	―	―
8.57	金庫	キンコ, かねぐら	○	―	○	―	―	―
8.58	長刀	チョウトウ, なぎなた	○	―	○	―	―	―
8.59	長身	チョウシン, ながみ	○	―	○	○	―	―
8.60	長者	チョウシャ, チョウジャ	○	○	○	―	―	―
8.61	長靴	チョウカ, ながぐつ	○	―	○	―	―	―
8.62	雨水	ウスイ, あまみず	―	―	―	―	―	―
8.63	雨雪	ウセツ, あまゆき	―	―	―	○	―	―
8.64	青梅	あおうめ, おうめ	○	―	○	―	―	―
8.65	青眼	セイガン, あおめ	○	―	○	―	―	―
8.66	青菜	セイサイ, あおな, **チンツァイ**（qīng cài）	―	―	―	―	―	―
8.67	青嵐	セイラン, あおあらし	○	―	○	―	―	―
8.68	青雲	セイウン, あおくも	○	―	○	―	―	―
9.1	俗名	ゾクメイ, ゾクミョウ	○	―	○	―	―	―
9.2	信楽	シンギョウ〔仏〕, しがらき	○	―	○	―	―	―
9.3	前方	ゼンポウ, まえかた	○	―	○	―	―	―
9.4	前日	ゼンジツ, まえび	○	―	○	―	―	―
9.5	前世	ゼンセイ, ゼンセ, ゼンゼ〔仏〕	○	―	○	―	―	―
9.6	前後	ゼンゴ, まえうしろ*	○	―	○	―	―	―
9.7	前頭	ゼントウ, まえがしら〔相撲〕	○	―	○	―	―	―
9.8	南風	ナンプウ, みなみかぜ, はえ	○	―	○	―	―	―

[71] 文献 A は「キンコウ」と「コンク〔仏〕」との 2 つを読み方として挙げ、文献 C も同様に 2 つを挙げるが、『日本国語大辞典』第 2 版などを参考に「キンぐち」を加えた。
[72] 文献 A は「キンギョク」と「きんたま」とを読み方として挙げ、文献 C も後者を「きんたま」とするが、『新潮現代国語辞典』第 2 版を参考に「キンたま」に改めた。

表 14　同字異訓のうち 2 字の漢字表記語となる名詞に該当する語例（その 14）

番号	語例	読み方	A	B	C	D	E	F
9.9	型式	ケイシキ, かたシキ	―	○	○	○[28]	―	―
9.10	変化	ヘンカ, ヘンゲ	○	―	○	―	―	―
9.11	律儀	リツギ〔仏〕, リチギ	○	―	○	―	―	―
9.12	後引	あとひき+, あとびき+	○	―	○	―	―	―
9.13	後世	コウセイ, ゴセ〔仏〕, あとセ	○	―	○	―	―	―
9.14	後生	コウセイ, ゴショウ	○	―	○	―	―	―
9.15	後後	あとあと, のちのち	―	―	―	―	―	―
9.16	思惟	シイ[73], シユイ[73]〔仏〕	○	○	○	―	―	―
9.17	急火[74]	キュウカ, キュウび	○	○	○	―	―	―
9.18	指切	さしきり*〔将棋〕, ゆびきり	○	―	○	―	―	―
9.19	指名	シメイ, ゆびな	―	―	―	○	―	―
9.20	指貫	さしぬき*, ゆびぬき	―	―	○	―	―	―
9.21	施行	シコウ, セコウ, セギョウ[75]〔仏〕	○	―	○	―	―	―
9.22	昨日	サクジツ, きのう	―	―	―	―	○	―
9.23	昨夜	サクヤ, ゆうべ	―	―	―	―	○	―
9.24	柳色	リュウショク, やなぎいろ	―	―	―	○	―	―
9.25	洒落[76]	シャラク, しゃれ[77]	○	―	○	―	―	―
9.26	海山	カイザン〔地学〕, うみやま	○	―	○	―	―	―
9.27	海辺	カイヘン, うみべ	―	―	○	―	―	―
9.28	海風	カイフウ, うみかぜ	○	―	○	―	―	―
9.29	点火	テンカ, とぼし, ともし	○	―	○	―	―	―
9.30	独楽	ドクラク, こま	○	―	○	―	―	―
9.31	独語	ドクゴ, ~~ドクコ~~[78], ひとりごと	○	○	○	―	―	―
9.32	発意	ハツイ[79], ホツイ[79]〔仏〕	○	―	○	―	―	―
9.33	相当	ソウトウ, あいトウ	○	―	○	―	―	―
9.34	相対	ソウタイ, あいタイ	○	―	○	―	―	―
9.35	祝詞	シュクシ, のりと	○	―	○	―	―	―
9.36	神主	シンシュ, かんぬし	○	―	○	―	―	―
9.37	神器	シンキ, ジンギ[80]	○	○	○	―	―	―

[73] 文献 A は「しい」と「しゆい〔仏〕」とを読み方として挙げるが、文献 B は両者を「シイ」と「シユイ」とに改めるとする。

[74] 文献 A は「急永」を語例として挙げるが、文献 B は「急火」に改めるとする。

[75] 文献 A は「シコウ」と「セコウ」と「セギョウ〔仏〕」とを読み方として挙げるのに対し、文献 C は後一者を「セギョウ」とするが、仮に「セギョウ〔仏〕」のままとした。なお、文献 A～C に挙げられている語例に亀甲括弧によって併記した分野は当該の語例の初出となる文献を尊重することを原則としてある。なお、脚注 23 も参照のこと。

[76] 文献 A は「酒落」を語例として挙げるが、文献 C は「洒落」に改めつつも 10 画とすることから本稿では「洒落」に改めた上で 9 画とした。

[77] 文献 A は「シャラク」と「シャレ」とを読み方として挙げ、文献 C も後者を「シャレ」とするが、『新潮現代国語辞典』第 2 版を参考に「しゃれ」に改めた。

[78] 文献 A は「ドクコ」と「ドクゴ」と「ひとりごと」とを読み方として挙げるのに対し、文献 B は前一者を「ドクゴ」に改めるとし、文献 C は後二者を読み方として挙げる。本稿でも文献 C に従うが、参考として見せ消ちによって示した。

[79] 文献 A は「はつい」と「ほつい〔仏〕」との 2 つを読み方として挙げ、文献 C も同様に 2 つを挙げるが、『新潮現代国語辞典』第 2 版を参考に両者を「ハツイ」と「ホツイ」とに改めた。

[80] 文献 A は「シンキ」と「じんぎ」とを読み方として挙げるが、文献 B は後者を「ジンギ」に改めるとする。

表 15　同字異訓のうち 2 字の漢字表記語となる名詞に該当する語例（その 15）

番号	語例	読み方	A	B	C	D	E	F
9.38	紅葉	コウヨウ, もみじ[81]	○	―	○	―	○	○
9.39	背向	ハイコウ, そがい	○	―	○	―	―	―
9.40	荘厳	ソウゴン, ショウゴン〔仏〕	○	―	○	―	―	―
9.41	草木	ソウモク, くさき	△[25]	―	△[27]	―	―	―
9.42	草色	ソウショク, くさいろ	―	―	―	△	―	―
9.43	草屋	ソウオク, くさや	○	―	○	―	―	―
9.44	草原	ソウゲン, くさはら	○	―	○	△	○	―
9.45	追従	ツイジュウ, ツイショウ	―	―	○	―	―	―
9.46	逆上	ギャクジョウ, さかあがり*	○	―	○	―	―	―
9.47	逆手	ギャクで[82], さかて	○	―	○	―	―	―
9.48	重石	ジュウセキ〔化学〕, おもし	○	―	○	―	―	―
9.49	重宝	チョウホウ, ジュウホウ	○	―	○	―	―	―
9.50	重複	チョウフク, ジュウフク	―	―	―	―	○	―
9.51	面子	メンツ, メンこ[83]	○	―	○	―	―	―
9.52	音声	オンセイ[84], オンジョウ	○	○	○	―	―	―
9.53	音頭[85]	オンドウ〔雅楽〕, オンド	○	―	○	―	―	―
9.54	風力	フウリョク, フウリキ〔能楽〕	○	―	○	―	―	―
9.55	風穴	フウケツ, かざあな	○	―	○	―	―	―
9.56	風気	フウキ, かぜけ	○	―	○	―	―	―
9.57	風体	フウテイ, フウタイ	○	―	○	―	―	―
9.58	風声	フウセイ, かざごえ	○	―	○	―	―	―
9.59	風車	フウシャ, かざぐるま	○	―	○	△	―	―
9.60	風波	フウハ, かざなみ, かぜなみ	○	―	○	―	―	―
9.61	風道	フウドウ, かざみち	○	―	○	―	―	―
9.62	風雲	フウウン, かざくも, かざぐも	○	―	○	○[86]	―	―
9.63	食肉	ショクニク, ジキニク〔仏〕	○	―	○	―	―	―
9.64	食堂	ショクドウ, ジキドウ〔仏〕	―	○	○	―	―	―
9.65	首座	シュザ, シュソ〔仏〕, くびのザ*	○	―	○	―	―	―
9.66	香水	コウスイ, コウズイ〔仏〕	○	―	○	―	―	―
9.67	香合	コウゴウ, コウあわせ*	○	―	○	―	―	―
10.1	修道	シュウドウ, シュドウ〔仏〕	○	―	○	―	―	―
10.2	借家	シャッカ[87], シャクや[87]	―	―	―	△	―	―
10.3	唐衣	からぎぬ, からころも	―	―	○	―	―	―
10.4	唐紙	トウシ, からかみ	○	―	○	―	―	―

[81] 文献 A は「コウヨウ」と「もみぢ」とを読み方として挙げるが、文献 C は後者を「もみじ」とする。
[82] 文献 A は「ギャクテ」と「さかて」とを読み方として挙げ、文献 C も前者を「ギャクテ」とするが、『新潮現代国語辞典』第 2 版を参考に「ギャクて」に改めた。
[83] 文献 A は「メンツ」と「めんこ」とを読み方として挙げるが、文献 C は後者を「メンこ」とする。
[84] 文献 A は「おんせい」と「オンジョウ」とを読み方として挙げるが、文献 B は前者を「オンセイ」に改めるとする。
[85] 文献 A は「音韻」を語例として挙げるが、文献 C は「音頭」とする。
[86] 文献 D は「フウウン」と「かざぐも」との 2 つのみを読み方として挙げる。
[87] 文献 E は「シャッカ」を読み方として挙げ、これを「法令用語」とする。また、読み方に言及せず、語種による書き分けによって混種語が「借や」のようになるとの記述から「シャクや」のことであると判断した。

表 16　同字異訓のうち 2 字の漢字表記語となる名詞に該当する語例（その 16）

番号	語例	読み方	A	B	C	D	E	F
10.5	家内	カナイ, やうち	○	―	○	―	―	―
10.6	家電	カデン, いえデン	―	―	―	―	―	―
10.7	差金	サキン, さしキン+, さしがね+	○	―	○	―	―	―
10.8	師家	シカ, シケ〔仏〕	○	―	○	―	―	―
10.9	座主	ザス[88], ザぬし	―	―	―	○	―	―
10.10	座頭	ザトウ, ザがしら	○	―	○	―	―	―
10.11	弱音	ジャクオン, よわね	―	―	○	○	―	―
10.12	徒事	トジ, ただごと	○	―	○	―	―	―
10.13	旅人	たびニン, たびびと	○	―	○	△	―	―
10.14	時雨	ジウ, しぐれ	○	―	○	―	―	―
10.15	根元	コンゲン, ねもと	―	―	―	―	△[89]	―
10.16	根太	ねダ, ねぶと	○	―	○	―	―	―
10.17	根本	コンポン, ねもと	○	―	○	―	○[89]	―
10.18	梅雨	バイウ, つゆ	―	―	―	―	○	―
10.19	流人	ルニン, ながれびと*	○	―	○	―	―	―
10.20	流通	リュウツウ, ルヅウ	○	―	○	―	―	―
10.21	流説	リュウセツ, ルセツ	○	―	○	―	―	―
10.22	特種	トクシュ, トクだね	○	―	○	―	―	―
10.23	病体	ビョウテイ, ビョウタイ	○	―	○	―	―	―
10.24	真人	シンジン, まひと〔姓〕	○	―	○	―	―	―
10.25	粉炭	フンタン, こなずみ	―	―	―	△	―	―
10.26	納得	ナットク, ノウトク	○	―	○	―	―	―
10.27	素性	ソセイ, スジョウ	―	―	―	―	―	―
10.28	素面	すメン[90]〔剣道〕, しらふ	○	―	○	―	―	―
10.29	素振	すぶり+, そぶり+	―	―	○	―	―	―
10.30	能力	ノウリョク, ノウリキ	○	―	○	―	―	―
10.31	脇手	わきて, わきで	○	―	○	―	―	―
10.32	荷重	カジュウ, におも	○	―	○	―	―	―
10.33	訓読	クンドク, クンよみ*	○	―	○	―	―	―
10.34	通夜	ツウヤ, ツヤ〔仏〕	○	―	○	―	―	―
10.35	造作	ゾウサク, ゾウサ	○	―	○	―	―	―
10.36	酒気	シュキ, さかけ	○	―	○	―	―	―
10.37	降伏	コウフク, ゴウブク〔仏〕	○	―	○	―	―	―
10.38	馬面	バメン, うまづら	―	―	―	○	―	―
10.39	馬場	バば, マば, うまば	○	―	○	―	―	―
10.40	高台	コウダイ, たかダイ[91]	○	○	○	―	―	―
10.41	高名	コウメイ, コウミョウ	○	―	○	―	―	―
10.42	高見	コウケン, たかみ	○	―	○	―	―	―
10.43	高足	コウソク, たかあし	―	―	○	―	―	―
10.44	高音	コウオン, たかね〔音曲〕	○	―	○	―	―	―
10.45	高話	コウワ, たかばなし	○	―	○	―	―	―

[88] 文献 D は「ザシュ」と「ザぬし」とを読み方として挙げるが、『日本国語大辞典』第 2 版などを参考に前者を「ザス」に改めた。
[89] 文献 E は「根本」について書き換えても読み方の定まらない別語（「根元」）になるとする。
[90] 文献 A は「スメン」と「しらふ」とを読み方として挙げるが、文献 C は前者を「すメン」とする。
[91] 文献 A は「コウダイ」と「たかだい」とを読み方として挙げるが、文献 B は後者を「たかダイ」に改めるとする。

表 17　同字異訓のうち 2 字の漢字表記語となる名詞に該当する語例（その 17）

番号	語例	読み方	A	B	C	D	E	F
10.46	高潮	コウチョウ, たかしお	○	―	○	―	―	―
11.1	健児	ケンジ, コンデイ	○	―	○	―	―	―
11.2	執行	シッコウ, シュギョウ〔仏〕	○	―	○	―	―	―
11.3	宿主	シュクシュ, やどぬし	○	―	○	―	―	―
~~11.4~~	~~寄付~~[92]	~~キフ, よりつき*〔株式〕~~	―	○	○	―	―	―
11.5	庵主	アンシュ, アンジュ〔仏〕	○	―	○	―	―	―
11.6	強力	キョウリョク, ゴウリキ	○	―	○	―	―	―
11.7	強気	ゴウギ[93], つよキ	○	―	○	―	―	―
11.8	強直	キョウチョク, ゴウチョク	○	―	○	―	―	―
11.9	強者	キョウシャ, つわもの	―	―	☆[27]	―	―	―
11.10	悪手	アクシュ, あしで〔書〕	○	―	○	―	―	―
11.11	悪性	アクセイ, アクショウ	○	―	○	―	―	―
11.12	掛花	かけはな+, かけばな+	○	―	○	―	―	―
11.13	掛金	かけキン+, かけがね+	○	―	○	―	―	―
11.14	掛替	かけかえ+, かけがえ+	○	―	○	―	―	―
11.15	教化	キョウカ, キョウゲ〔仏〕	○	―	○	―	―	―
11.16	救世	キュウセイ, クセ, クゼ, グゼ〔仏〕	○	―	○	―	―	―
11.17	深深	シンシン, ふかぶか	―	―	―	△	―	―
11.18	清浄	セイジョウ, ショウジョウ〔仏〕	○	―	○	―	―	―
11.19	清規	セイキ, シンギ〔仏〕	○	―	○	―	―	―
11.20	猪口	チョコ, チョク	○	―	○	―	―	―
11.21	現世	ゲンセイ, ゲンセ, ゲンゼ	○	―	○	―	―	―
11.22	現場	ゲンジョウ, ゲンば	○	―	○	―	―	―
11.23	産子	うぶこ, うぶご	○	―	○	―	―	―
11.24	異人	イジン, ことひと[94]	○	―	○	―	―	―
11.25	異客	イカク, イキャク	○	―	○	―	―	―
11.26	祭文	サイブン, サイモン	☆[25]	―	○	―	―	―
11.27	細目	サイモク, ほそめ	○	―	○	△	―	―
11.28	細字	サイジ, ほそジ	―	―	―	△	―	―
11.29	細細	こまごま, ほそぼそ	―	―	○	―	―	―
11.30	経典	ケイテン, キョウテン〔仏〕	○	―	○	―	―	―
11.31	経緯	ケイイ, いきさつ, たてぬき	○	―	○	―	―	―
11.32	船橋	センキョウ, ふなばし	○	―	○	―	―	―
11.33	船頭	セントウ, センドウ	○	―	○	―	―	―
11.34	鳥目	チョウモク, とりめ	○	―	○	―	―	―

[92] 改めて確認したところ、この語例は佐竹（1987）の修正を経て送り仮名によって区別し切れるものに動くものであったことから省くこととし、それを見せ消ちによって示した。改めて佐竹（1988）の表に挙げられている 875 語について対応関係の整理を試みると送り仮名によって区別し切れるとするものは 214 語とあるが、正しくは 213 語であり、水谷・松原・坪井（1971）が送り仮名によって区別し切れるとする「値上」の 1 語を送り仮名によって区別し切れるものとして挙げ忘れたものと見える。この 213 語のうち脚注 26 に示した「上物」、「水煙」、「合着」、「利札」の 4 語を残し、残りの 209 語と「値上」の 1 語との 210 語を実際には省いた。なお、この 209 語には「寄付」が含まれることから表 1～表 20 に掲げた 763 語に含めていないことを申し添える。

[93] 文献 A は「ゴウギ」と「つよキ」とを読み方として挙げるのに対し、文献 C は前者を「ゴウキ」とするが、『日本国語大辞典』第 2 版などを参考に「ゴウギ」のままとした。

[94] 文献 A は「イジン」と「ことびと」との 2 つを読み方として挙げ、文献 C も後者を「ことびと」とするが、『日本国語大辞典』第 2 版などを参考に「ことひと」に改めた。

表 18　同字異訓のうち 2 字の漢字表記語となる名詞に該当する語例（その 18）

番号	語例	読み方	A	B	C	D	E	F
11.35	黄色	オウショク, きいろ	―	―	―	―	―	―
11.36	黄金	オウゴン, こがね	○	―	○	―	―	―
11.37	黒子	くろご〔劇〕, ほくろ	○	―	○	―	△[95]	―
11.38	黒衣	コクイ, コクエ, くろご〔劇〕	○	―	○	―	△[95]	―
12.1	傀儡	カイライ, くぐつ	○	―	○	―	―	―
12.2	博士	ハクシ, ハカセ〔音曲〕	○	―	○	―	○	―
12.3	奥様	おくさま, おくざま	○	―	○	―	―	―
12.4	寒気	カンキ, さむけ, さむげ	○	―	○	―	―	―
12.5	帽子	ボウシ, モウス〔仏〕	○	―	○	―	―	―
12.6	廃立	ハイリツ, ハイリュウ〔仏〕	○	―	○	―	―	―
12.7	御上	おうえ, おかみ, おのぼり*	○	―	○	―	―	―
12.8	御下	おした, おしも	○	―	○	―	―	―
12.9	御方	おかた, おんかた, みかた	○	―	○	―	―	―
12.10	御代	おダイ, おかわり*, みよ	○	―	○	―	―	―
12.11	御札	ギョサツ, おふだ	○	―	○	―	―	―
12.12	御前	ゴゼン, おまえ	○	―	○	―	―	―
12.13	御座	ギョザ, ゴザ, おザ	―	―	○	―	―	―
12.14	敬礼	ケイレイ, キョウライ〔仏〕	○	―	○	―	―	―
12.15	最中	サイチュウ, もなか	○	―	○	―	―	―
12.16	朝会	チョウカイ, あさカイ〔茶道〕	○	―	○	―	―	―
12.17	朝臣	チョウシン, あそみ, あそん	○	―	○	―	―	―
12.18	極大	キョクダイ〔数学〕, ゴクダイ	○	―	○	―	―	―
12.19	極小	キョクショウ〔数学〕, ゴクショウ	○	―	○	―	―	―
12.20	極官	キョッカン, ゴッカン	○	―	○	―	―	―
12.21	湯気	ゆけ, ゆげ	○	―	○	―	―	―
12.22	無人	ブニン, ムジン, ムニン	○	―	○	―	―	―
12.23	無作	ブサク, ムサク, ムサ〔仏〕	○	―	○	―	―	―
12.24	無性	ムショウ, ムセイ	―	―	○	―	―	―
12.25	番頭	バントウ, バンがしら	☆[25]	―	○	―	―	―
12.26	筋骨	キンコツ, すじぼね	○	―	○	○	―	―
12.27	結集	ケッシュウ, ケツジュウ[96]〔仏〕	○	○	○	―	―	―
12.28	評定	ヒョウテイ, ヒョウジョウ	○	―	○	―	―	―
12.29	遊行	ユウコウ, ユギョウ〔仏〕	○	―	○	―	―	―
12.30	遊戯	ユウギ, ユゲ〔仏〕	○	―	○	―	―	―
12.31	過言	カゲン, カゴン	○	―	○	―	―	―
12.32	道人	ドウジン, ドウニン	○	―	○	―	―	―
12.33	道中	ドウチュウ, みちなか	○	―	○	―	―	―
12.34	道程	ドウテイ, みちのり	○	―	○	―	―	―
12.35	道楽	ドウラク, みちガク〔雅楽〕	○	―	○	―	―	―
12.36	開眼	カイガン, カイゲン〔仏〕	○	―	○	―	―	―
12.37	間尺	ケンジャク, まジャク	○	―	○	―	―	―
12.38	雲煙	ウンエン, くもけむり	―	―	―	○	―	―
12.39	順流	ジュンリュウ, ジュンル〔仏〕	○	―	○	―	―	―
13.1	塩味	エンミ, しおミ, しおあじ	―	―	―	―	―	―
13.2	幕下	バッカ, まくした〔相撲〕	○	―	○	―	―	―

[95] 文献 E は「黒子」について書き換えると読み方の定まる別語（「黒衣」）になるとするが、この「黒衣」も読み方の定まらない語である。
[96] 文献 A は「ケッシュウ」と「ケッジュウ」とを読み方として挙げるが、文献 B は後者を「ケツジュウ」に改めるとする。

表 19　同字異訓のうち 2 字の漢字表記語となる名詞に該当する語例（その 19）

番号	語例	読み方	A	B	C	D	E	F
13.3	愛想	アイソウ, アイソ	―	―	―	―	○	―
13.4	数奇	スウキ, サッキ, すき	○	―	○	―	―	―
13.5	新山	シンザン, シンやま	―	―	―	○	―	―
13.6	新切	シンきり+, シンぎり+	○	―	○	―	―	―
13.7	新手	シンて, あらて	○	―	○	○	―	―
13.8	新湯	シンゆ, あらゆ	―	―	―	○	―	―
13.9	新道	シンドウ, ジンみち, シンみち	○	―	○	―	―	―
13.10	節節	セツセツ, ふしぶし	○	―	○	―	―	―
13.11	罪科	ザイカ, つみとが	○	―	○	―	―	―
13.12	群生	グンセイ, グンジョウ	○	―	○	―	―	―
13.13	聖人	セイジン, ショウニン〔仏〕	○	―	○	―	―	―
13.14	聖者	セイジャ, ショウジャ〔仏〕	○	―	○	―	―	―
13.15	聖教	セイキョウ〔Chr〕, ショウギョウ〔仏〕	○	―	○	―	―	―
13.16	聖道	セイドウ, ショウドウ〔仏〕	○	―	○	―	―	―
13.17	腹痛	フクツウ, はらいた	―	―	―	○[28]	―	―
13.18	裏金	うらキン〔日本画〕, うらがね	○	―	○	○	―	―
13.19	遠火	エンカ, とおび	○	―	○	―	―	―
13.20	遠近	エンキン, おちこち	―	―	○	―	―	―
13.21	鉄輪	テツリン, かなわ	○	―	○	―	―	―
13.22	雷声	ライセイ, かみなりごえ	―	―	―	○	―	―
14.1	境界	キョウカイ, キョウガイ〔仏〕	○	―	○	―	―	―
14.2	歌会	カカイ, うたカイ	―	―	○	―	―	―
14.3	歌舞	カブ, うたまい	―	―	―	○	―	―
14.4	種子	シュシ, シュウジ〔仏〕	○	―	○	―	―	―
14.5	端書	はがき, はしがき	○	―	○	―	―	―
14.6	精兵	セイビョウ, セイヘイ	―	―	○	―	―	―
14.7	精霊	セイレイ, ショウリョウ〔仏〕	○	―	○	―	―	―
14.8	聞書	ききショ〔香道〕, ききがき	○	―	○	―	―	―
14.9	読本	ドクホン, トクホン, よみホン*	○	―	○	―	―	―
14.10	豪気	ゴウキ, ゴウギ	○	―	○	―	―	―
14.11	雑用	ザツヨウ, ゾウヨウ	○	―	○	―	―	―
14.12	雑筆	ザッピツ, ゾウヒツ	○	―	○	―	―	―
15.1	撥音	ハツオン, ばちおと	―	―	○	―	―	―
15.2	横手	よこて, よこで	○	―	○	―	―	―
15.3	横道	オウドウ, よこみち	○	―	○	―	―	―
15.4	熱気	ネッキ, ネツケ	○	―	○	―	―	―
15.5	諸子	ショシ, もろこ〔魚〕	―	―	○	―	―	―
15.6	遺言	イゲン, ユイゴン, イゴン[97]〔法〕	○	―	○	―	○	―
16.1	機先	キセン, キさき	○	―	○	―	―	―
16.2	機関	キカン, からくり[98]	○	―	○	―	―	―
16.3	濁世	ダクセイ, ジョクセ〔仏〕	○	―	○	―	―	―
16.4	築地	つきジ, ついジ	○	―	○	―	―	―
16.5	縦横	ジュウオウ, たてよこ	―	―	―	△	―	―
16.6	縫針	ぬいはり+, ぬいばり+	○	―	○	―	―	―
16.7	薬湯	ヤクトウ, くすりゆ	○	―	○	―	―	―

[97] 文献 E も「イゲン」と「ユイゴン」と「イゴン」とを読み方として挙げ、後一者を「法令用語」とする。

[98] 文献 A は「キカン」と「からくり」とを読み方として挙げ、文献 C は後者を「カラクリ」とするが、『新潮現代国語辞典』第 2 版を参考に「からくり」とした。

表 20　同字異訓のうち 2 字の漢字表記語となる名詞に該当する語例（その 20）

番号	語例	読み方	A	B	C	D	E	F
16.8	親方	おやかた, おやがた	○	―	○	―	―	―
16.9	親父	シンプ, おやじ	○	―	○	―	―	―
16.10	頭巾	ズキン, トキン	○	―	○	―	―	―
16.11	頭数	トウスウ, あたまかず	○	―	○	○	―	―
16.12	龍馬	リョウメ, リュウメ〔将棋〕	○	―	○	―	―	―
17.1	講師	コウシ, コウジ〔仏〕	○	―	○	―	―	―
17.2	醜女	シュウジョ, しこめ	―	―	○	―	―	―
17.3	醜名	シュウメイ, しこな	―	―	○	―	―	―
17.4	霜月	ソウゲツ, しもつき	○	―	○	―	―	―
18.1	難行	ナンコウ, ナンギョウ	○	―	○	―	―	―
19.1	曝首	バクシュ, さらしくび, しゃれこうべ	○	―	○	―	―	―
19.2	警策	キョウサク〔禅〕, キョウザク	○	―	○	―	―	―
19.3	鏡板	キョウバン, かがみいた	―	―	―	○	―	―
21.1	露仏	ロフツ, ロブツ	○	―	○	―	―	―

4. おわりに

本稿では近現代語のコーパスを構築するに当たって問題となる読み方の定まらない語を対象とし、それを指す用語とそれに該当する語例とを共に整理してきた。これは読み方の定まらない語のうち現時点では内省によって読み方を認定せざるを得ない語について更に分類したり何らかの手順によって読み方を認定したりするための前段階として位置づけられるものである。

そもそも読み方の定まらない語は「基本的に漢字のみによって綴られる変体漢文の読解においては、様々な局面で「その文字列をどう訓ずるか」ということが問題になるが、特に困難なものの一つが語種の確定である。漢字を字音語だけでなく固有語（和語）の表記にも用いるという表記様式に従う文章においては、これは不可避の問題と言えるかもしれない。」（田中 2020: 31）と述べた上で「現代語でさえも、例えば川端康成『雪国』の冒頭にある「国境」の二文字を漢語（コッキョウ）として読むか和語（クニザカイ）として読むかが問題となる[99]」（田中 2020: 36）とする田中（2020）の指摘に照らせば、コーパス構築や語彙調査において問題となるのみならず、古典語でも現代語でも問題となるものと言える。更に「表記論は，ある語をどう書いているか，という議論であると同時に，どう読むか（読まれるか）という議論でもある」という尾山（2020: 78）の指摘も踏まえれば、これは表記の研究にとって重要な問題であると言えるのではないか。

[99] この『雪国』の冒頭にある「国境」という語例は人気があると見え、様々な文献（玉村 1985; 武部 1988; 大島 1992）に言及がある。なお、詳しくは大島（1992）を参照のこと。

また、田中（2020）も指摘している通り、この問題は語種の認定とも密接に関わるものである。実際にコーパスに現れた読み方の定まらない語の約 6 割が語種の認定に関わるとする伝・中村・小木曽・小椋（2008）の報告もあり、語種の認定がコーパス構築に当たって語に品詞などの情報――「形態論情報」（小椋・小磯・冨士池・宮内・小西・原 2011）と呼ばれるもの――を与える際の前提となることに照らせば、語種の認定は読み方の認定と共にコーパス構築に当たって重要なものである[100]。

なお、このような問題について伝・山田・小椋・小磯・小木曽（2008）は「従来の日本語形態素解析が対象としていなかった新しい問題」とするが、既に述べてきたことに加えて「語彙調査の手法は，基礎的な技術となって，現在ではコーパス構築の一部として定着している」という山崎（2013: 156）の指摘に照らしても問題それ自体が新しいとは言えないことには留意する必要がある。この問題がコーパス構築や情報処理――特に自然言語処理――における問題として新たに捉え直されたという点ではその通りである。

この問題を取り上げる意義について水谷・松原・坪井（1971）は情報処理における貢献と国語教育・日本語教育における貢献とを挙げている。特に後者に関連するところでは国語辞典の記述――例えば、2021 年刊行の『明鏡国語辞典』第 3 版において新たに設けられた「読み分け」欄など――の拡充や反対にその知見を利用した発展に資する可能性を有するものである。また、今後は形態素解析用辞書「現代書き言葉 UniDic」などから「書字形」が同一であって「語形」（または「語彙素読み」）の異なるものを抽出して網羅的な検討に供することにより、両者における貢献も見込まれるものと言える[101]。

最後に本稿においては 2 字の漢字表記語となる名詞に限定し、その整理を先行して試みたことから 1 字または 3 字以上のものや用言などについて整理することは今後の課題とする。これを足掛かりとして更に研究が進展することを願って筆を擱くこととする。

---

[100] 菅野（2021a, b）においても読み方を認定する手順に続いて語種を認定する手順を提示していることを申し添える。近現代語のコーパス構築に当たっては併せて参照のこと。

[101] ただし、網羅的な検討に当たっては豊富な語例から対象を限定したり分類したりすることに莫大な労力を要する懸念がある。例えば、既に語彙調査の結果から網羅的な検討を試みた田中（1971a, b）の研究は貴重であるが、その語例を再整理して更なる検討に供することには一定の困難を伴うものと考えられる。

謝辞

本稿はJSPS科研費JP22K19985による成果の一部である。

参考文献

石井正彦（2014）「同形語」佐藤武義・前田富祺（編）『日本語大事典』（下），pp.1454-1455，朝倉書店.

岩淵匡（1989）「表記のゆれ」佐藤喜代治（編）『漢字講座 11 漢字と国語問題』，pp.178-209，明治書院.

大島中正（1992）「異音同表記語―その種類と問題点―」『同志社女子大学日本語日本文学』（4），pp.1-11，同志社女子大学日本語日本文学会.

小椋秀樹・小磯花絵・冨士池優美・宮内佐夜香・小西光・原裕（2011）「『現代日本語書き言葉均衡コーパス』形態論情報規程集」第4版（下），国立国語研究所.

尾山慎（2020）「文字・表記（理論・現代）」『日本語の研究』16（2），pp.77-83，日本語学会.

「角川日本地名大辞典」編纂委員会（編）（1978～1990）『角川日本地名大辞典』，角川書店.

菅野倫匡（2021a）「語種の観点から見る漢字含有率の安定要因―芥川賞作品の分析を通して―」『計量国語学』32（8），pp.479-495，計量国語学会.

菅野倫匡（2021b）「芥川賞作品コーパスの構築に向けて―語彙調査に関する未解決の問題との関連から―」『日本語と日本文学』（67），pp.75-88，筑波大学日本語日本文学会.

北原保雄（編）（2021）『明鏡国語辞典』第3版，大修館書店.

佐竹秀雄（1987）「同字異訓熟語集」水谷静夫（編）『朝倉日本語新講座 1 文字・表記と語構成』，pp.198-219，朝倉書店.〔1989年刊行の初版第2刷では「補遺」の追加あり〕

武部良明（1988）「二字漢字語の音訓読み分けについて」『国文学研究』（94），pp.1-10，早稲田大学国文学会.

田中章夫（1971a）「同形短単位表」『電子計算機による新聞の語彙調査（Ⅱ）（国立国語研究所報告 38）』，pp.305-314，秀英出版.〔同表の「作成作業には，研究補助員・堀江久美子の助力を得た」（田中 1971b:123）とあるが、田中（1971a）には言及なし〕

田中章夫（1971b）「新聞語彙調査の同音語と同形語」『電子計算機による国語研究Ⅲ（国立国語研究所報告 39）』，pp.121-145，秀英出版.

田中章夫（1978）『国語語彙論』，明治書院.

田中章夫・堀江久美子（1969）「語彙調査データによる同表記別語表と同音別語表の作成」『LDP』（3），pp.42-45，国立国語研究所.

田中章夫・堀江久美子（1970）「新聞語彙調査データによる同音短単位表と同形短単位表の作成」『LDP』(6)，pp.12-26，国立国語研究所.

田中草大（2020）「吾妻鏡の語彙」安部清哉（編）『シリーズ〈日本語の語彙〉3 中世の語彙―武士と和漢混淆の時代―』，pp.26-37，朝倉書店.

田原圭子（1975）「原文と現代表記版との比較―森鷗外作『高瀬舟』の表記調査―」『言語生活』(285)，pp.49-55，筑摩書房.

玉村文郎（1985）『日本語教育指導参考書 13 語彙の研究と教育』（下），国立国語研究所.

玉村禎郎（2013）「同字異訓」『杏林大学外国語学部紀要』(25)，pp.63-83，杏林大学外国語学部.

伝康晴・中村純平・小木曽智信・小椋秀樹（2008）「語種情報を用いた同表記異音語の解消」『言語処理学会第 14 回大会発表論文集』，pp.69-72，言語処理学会.

伝康晴・山田敦・小椋秀樹・小磯花絵・小木曽智信（2008）『UniDic version 1.3.9 ユーザーズマニュアル』，国立国語研究所.

日外アソシエーツ編集部（編）（1998）『苗字 8 万よみかた辞典』，日外アソシエーツ.

日外アソシエーツ編集部（編）（2002）『名前 10 万よみかた辞典』，日外アソシエーツ.

日外アソシエーツ（編）（2004a）『人名よみかた辞典―姓の部―』新訂第 3 版，日外アソシエーツ.

日外アソシエーツ（編）（2004b）『人名よみかた辞典―名の部―』新訂第 3 版，日外アソシエーツ.

日外アソシエーツ（編）（2005）『新訂現代政治家人名事典―中央・地方の政治家 4000 人―』，日外アソシエーツ.

日本国語大辞典第二版編集委員会・小学館国語辞典編集部（編）（2000～2002）『日本国語大辞典』第 2 版，小学館.

野村雅昭（2018）「同形語」日本語学会（編）『日本語学大辞典』，pp.672-674，東京堂出版.

平凡社・平凡社地方資料センター（編）（1979～2004）『日本歴史地名大系』，平凡社.

水谷静夫（1970）「同形異義語」水谷静夫『数学ライブラリー（教養篇）5 言語と数学』，pp.83-105，森北出版.

水谷静夫（1972）「同字異訓熟語集拾遺」『計量国語学』(60)，p.44，計量国語学会.

水谷静夫（1983）『朝倉日本語新講座 2 語彙』，朝倉書店.

水谷静夫（1987）「序説」水谷静夫（編）『朝倉日本語新講座 1 文字・表記と語構成』，pp.1-19，朝倉書店.

水谷静夫・松原順子・坪井美智子（1971）「同字異訓熟語集」『計量国語学』(58)，pp.21-40，計量国語学会.

山崎誠（2013）「語彙調査の系譜とコーパス」前川喜久雄（監・編）『講座日本語コーパス 1 コーパス入門』，pp.134-158，朝倉書店.

山田俊雄・白藤礼幸・築島裕・奥田勲（2000）『新潮現代国語辞典』第 2 版，新潮社.

横山詔一・笹原宏之・野崎浩成・ロング，エリク（1998）「調査の概要」横山詔一・笹原宏之・野崎浩成・ロング，エリク（編）『国立国語研究所プロジェクト選書 1 新聞電子メディアの漢字―朝日新聞 CD-ROM による漢字頻度表―』，pp.1-28，三省堂.

吉田東伍（1969～1971）『大日本地名辞書』増補版，冨山房.

かんの　みちまさ／人文社会系

（2022 年 12 月 22 日受理）